

第2回 南知多町立学校建設検討委員会

日時：令和8年7月27日（月）午前10時～

会場：南知多町役場 大会議室

次第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

【報告事項】

1) 前提条件の整理

①校舎の建設方式における前提条件の整理

資料1

②特別教室の授業コマ数から見た現況整理

資料2

2) 事前アンケート集計結果

資料3

3) 先進校の視察報告

資料4

【協議事項】

0) グループワークの進め方説明

資料5

1) 校舎の建設方式について

資料6

2) 地域開放の方向性について

資料7

4 質疑応答

5 その他

1) 町民ワークショップについて

資料9

2) 次回予定

第3回 令和8年9月30日 午前10時～

南知多町役場 大会議室

6 閉会

校舎の建設方式における前提条件の整理

1. 新校舎建設の基本方針

- ・将来、小学校の統合が必要となる場合に備えるため、中学校新校舎建設に合わせて、同じ敷地内に小学校の普通教室を建設し、特別教室などは小中学校で兼用できる校舎を計画とする。
- ・小学校機能、公民館機能、図書館機能、および総合体育館機能を複合した南知多中学校新校舎を建設する。

※第1回検討委員会や令和8年度公共施設再配置計画ロードマップの内容を参照

2. 事前アンケートの回答内容の分析

学校建設検討委員への事前アンケートを実施し、新しい校舎のあり方について意見を伺いました。「小中同一棟」又は「小中別棟」にするかについては、以下の4つの視点で意見が寄せられました。

①学習・生活環境の独立性に関する懸念

- ・小学校と中学校の日課表のズレによる学習環境への影響(落ち着いて学習できるか)
- ・小学1年生と中学3年生の発達や体格差への配慮、顔見知りばかりの環境での気持ちの切り替え
- ・児童生徒が不必要に混在しないような動線計画の必要性

②施設・設備の適正化に関する懸念

- ・小中学生の体格差に伴うトイレの高さ等の設備スケールの問題
- ・特別教室等の共用施設における、小中それぞれの独自性の担保と運用上の課題

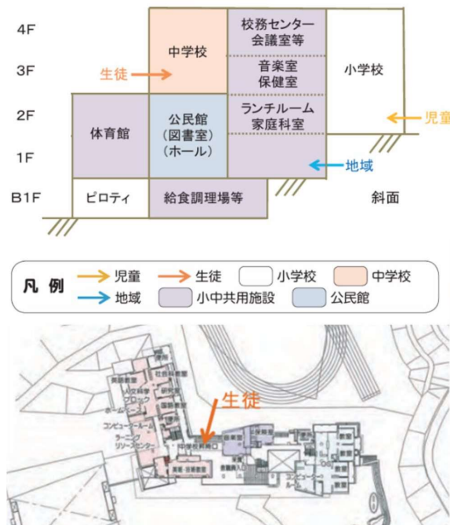
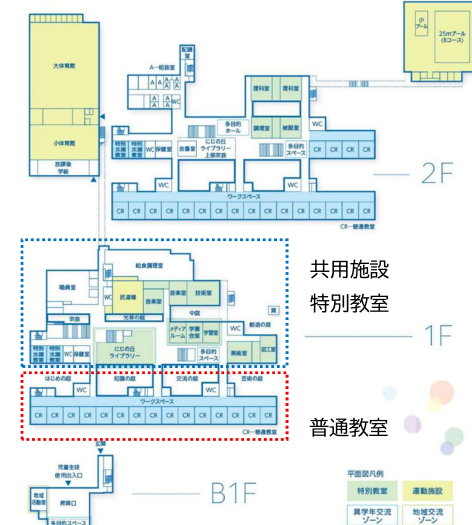
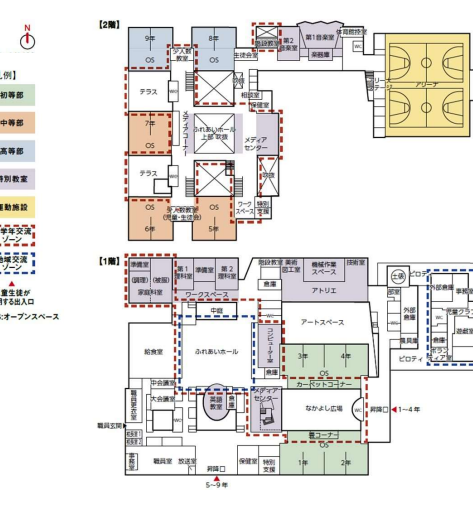
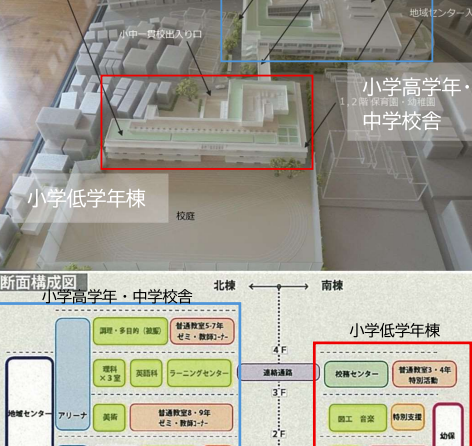
③段階的整備・将来の不確実性への懸念

- ・小学校の統合時期が未決定の中での、全体構想の難しさ
- ・将来の子どもの数の減少を見据えた、施設規模の適正化や柔軟性(フリースペース化等)
- ・複合施設化や南知多のランドマークとしての役割への期待

④コスト・敷地利用に関する課題

- ・建設コスト、及び将来にわたる維持管理・ランニングコストの縮減
- ・複合化施設を見据えた敷地利用

3. 小中同一棟と小中別棟について

小中同一棟型 特徴 ○同じ建物の中で、階や教室配置、共用空間などを工夫し、小学校と中学校それぞれの生活空間を分ける考え方である。 ○図書館や特別教室など共用施設を中心に配置し、必要に応じて、小中学生が異学年交流しやすい空間構成とすることができる。 ○異学年交流や小中学校合同の学習活動に対応しやすく、児童生徒数や教育活動の変化に応じた柔軟な空間利用がしやすい。 ○日常的に小学生と中学生の様子を感じられるため、学校全体としての一体感や、進学時の連続性をつくりやすい。	事例1 南砺市立利賀小学校 南砺市立利賀中学校  凡例 → 児童 → 生徒 → 小学校 → 中学校 → 地域 → 小中共用施設 → 公民館	事例2 瀬戸市立にじの丘学園  共用施設 特別教室 普通教室	事例3 飛鳥村立飛島学園  【凡例】 初等部 中等部 高等部 特別教室 運動施設 図書室 音楽室 体育館 児童生徒が使用する出入口 OS: オープンスペース
小中別棟型 特徴 ○建物単位で小学校と中学校の生活空間を分け、それぞれの建物を渡り廊下でつなぐ考え方である。 ○小学校と中学校の生活空間の独立性が高く、発達段階に応じた学習環境や生活環境を整えやすい。 ○登下校や休み時間などにおける児童生徒の動線を分けやすく、日常生活における動線の交錯を抑えることができる。 ○小学校から中学校へ進学する際に、建物や生活空間が変わることで、心理的な切り替えや成長の節目を感じやすい。	事例1 川島町立つばさ小学校・川島中学校  中学校舎 小学校舎 遊具設置 学校ファーム(畑)整備	事例2 品川区立豊葉の杜学園  1～4年生・特別支援学級 給食室 路上渡り廊下 アリーナ 地蔵センター入り口 小学高学年・中学校舎 小学低学年棟 校庭 断面構成図 小学高学年・中学校舎 北棟 南棟 小学低学年棟	事例3 土岐市立濃南小学校・濃南中学校  1F 2F 中学校校舎 小学校校舎 グラウンド 正門

小中同一型参照：

事例1：<https://www.city.nanto.toyama.jp/material/files/group/8/0000069252.pdf> 事例2：https://www.mext.go.jp/co-sha/ideas/case_setonijinooka_00001.html

事例3：https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/icsFiles/afildfile/2015/10/28/1360523_05_1.pdf

小中別棟型参照：

事例1：<https://www.town.kawajima.saitama.jp/secure/11539/tougoudayori5.pdf> 事例2：<https://www.city.suginami.tokyo.jp/documents/7237/2report.pdf> 事例3：<https://blog-imgs-75.fc2.com/t/o/n/tononews/20150407202403f1a.jpg>

特別教室の授業コマ数から見た現況整理

南知多中学校および豊浜小学校の複合化に伴う特別教室の共用に関する検証を進めていくにあたり現況整理を行いました。

《各学校の事前整理》

事前整理事項として南知多中学校および豊浜小学校の「特別教室数」、「各特別教科単元の授業数」を整理します。

■南知多中学校

現在の特別教室の諸室数	理科室	1室	音楽室	1室	美術室	1室	技術室	1室
	家庭科室	調理、被服 各1室						
	学習室	1室	多目的室	1室	相談室	1室		
	進路指導学習室	1室	通級指導教室	1室				

<授業コマ数> 通常学級のみ(カッコ内は特支学級のみ) ※令和8年度の時間割にもとづく

		月						火						水						木						金						授業数 合計
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
教科	理科	1	2	2	2			1	1	1	1	2	1	2	1	1	2	1	(1)	2	1	2							1	2	3	33 (2)
	音楽					1			1	1		1			1			(1)				1					1				7 (1)	
	美術	1							1		1				1	1	1												1	1	(1)	8 (1)
	技術				(1)	1		1		1		1	1							1											6 (1)	
	家庭科			(1)					1		1							1	1	1		1									6 (1)	
	技家	1																				1					1					3

※着色は授業が被っている時間帯を示します。

■豊浜小学校

現在の特別教室の諸室数	理科室	1室	音楽室	1室	図工室	1室	家庭科室	1室
-------------	-----	----	-----	----	-----	----	------	----

<授業コマ数> 通常学級のみ(カッコ内は特支学級のみ) ※令和8年度の時間割にもとづく

		月						火						水						木						金						授業数 合計
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
教科	理科							1	1	1	1								1	1	(2)	(2)			1	1				1		11 (11)
	音楽			1	1					1			1	1						1	1				1			1			11 (6)	
	図工							1	1		1	1			1	1	1	1									1	1			12 (10)	
	家庭科														1	1															2	

※着色は授業が被っている時間帯を示します。

《将来の共用に関する検証》

事前整理を元に小中学校の授業コマ数を合計し、下記諸室数の1週間の授業可能コマ数から稼働率を出し、100%以下であればカリキュラムの組み方により共用できると仮定しています。

■南知多中学校+豊浜小学校

想定される特別教室の諸室数	理科室	2室	準備室	1室	音楽室	1室
	美術室	1室	技術室	1室	家庭科室	1室

教科	合計コマ数	算定式	稼働率
理科	小学校 22コマ	理科室2室の場合 58コマ $57 \div 58 = 98.2\%$	98.2% ≤ 100% OK
	中学校 35コマ 計 57コマ		
音楽	小学校 17コマ	音楽室 29コマ $25 \div 29 = 86.2\%$	86.2% ≤ 100% OK
	中学校 8コマ 計 25コマ		
図工 美術 技術 技家	小学校 22コマ	美術、技術 1室ずつの場合 58コマ $41 \div 58 = 70.6\%$	70.6% ≤ 100% OK
	中学校 9コマ		
	中学校 7コマ		
家庭科	小学校 2コマ	家庭科室 29コマ $9 \div 29 = 31.0\%$	31.0% ≤ 100% OK
	中学校 7コマ 計 9コマ		

※上記コマ数は特支学級も含んだ数とし、どの授業においても特別教室が利用可能な検討としています。

《今後の検討・整理事項》

1. 実態に基づいた共用検討

本検討はあくまでも授業コマ数を元に検討した結果です。

今後は教育委員会、学校と協議を重ね、実際の運用面も考慮した上で共用について検討していきます。

また、現在の南知多中学校のその他各諸室についても現在の利用状況を踏まえ、今後の新しい教育を取り入れていくことを視野に、諸室の必要性、将来性を考慮し、配置検討を行っていきます。

2. 特別教室の地域開放の検討

上記検討結果の諸室数の整理の上、本検討委員会、町民ワークショップの意見を合わせ、地域開放や共用、あらゆる可能性を検討していきます。

特別教室の共用にかかる方向性（案）

- ・特別教室は上記で整理した諸室数で共用可能と考えらえる。
- ・原則、8:30～16:00（授業時間）および 16:00～17:00（部活動時間※地域移行後も含む）は、学校優先とし、17:00以降は地域開放が可能。
- ・災害時の利用については、別途検討が必要。

第1回委員事前アンケート集計結果

総評

Q1.校舎のあり方について

別棟を支持する意見がやや多く見られたものの、その主な理由は児童生徒の発達段階や学校運営、セキュリティへの配慮を求める内容であった。一方で、同一棟についても建設・維持管理コストの縮減や将来的な児童生徒数への対応などの観点から一定の理解が示されている。今後は、これらの意見を踏まえ、特別教室の配置や地域開放のあり方、小中学校のゾーニングや動線計画などを含め、施設構成について総合的に検討を進めることが望まれる。

Q2.プールについて

既存学校のプール活用を支持する意見がやや多く見られた。また、自由意見では、民間施設や大学、近隣自治体のプールなど、周辺施設を活用した水泳学習を求める意見も多く寄せられた。今後は、建設・維持管理コストや移動負担等を踏まえ、周辺施設の活用を含めた水泳学習の実施方法について検討を進めることが望まれる。

Q3.図工室・美術室・技術室について

意見が分かれたものの、兼用を支持する意見では施設の効率的な利用や建設コストの縮減、柔軟な運用を重視する声が見られた。一方で、別室を支持する意見では、授業運営や教材・作品の保管、安全性への配慮が求められた。今後は、各教科の利用状況や授業時数を踏まえ、安全性や運用面に十分配慮しながら、図工室・美術室・技術室の一部兼用を含めた施設構成について検討を進めることが望まれる。

Q4.家庭課室・調理室・被服室について

「家庭科室・調理室」と「被服室」の2室構成を支持する意見が多く、調理機能を確保しつつ、兼用による効率的な施設利用を望む傾向が見られた。今後は、授業内容や運用面、安全性に加え、地域開放時の利便性も踏まえ、一部兼用を含めた施設構成について検討を進めることが望まれる。

Q5.理科室について

小中学校兼用と別々の整備が同数となり、意見が分かれる結果となった。兼用を支持する意見では施設の効率的な利用やコスト縮減を重視する一方、別々の整備を支持する意見では、実験内容や使用薬品の違い、安全管理、授業運営への配慮を求める声が多く見られた。今後は、利用状況や安全性、運用面を十分に踏まえ、兼用の可能性を含めた理科室の施設構成について検討を進めることが望まれる。

Q6.音楽室について

小中学校兼用を支持する意見が多数を占めた。授業頻度や利用実態を踏まえ、1室に集約することで設備の充実や効率的な施設利用を望む意見が多く見られた。今後は、必要な広さや設備を確保するとともに、地域開放や多目的利用も視野に入れ、小中学校兼用を基本とした施設構成について検討を進めることが望まれる。

Q7.図書室について

小中学校兼用を支持する意見が多く見られた。蔵書の有効活用や効率的な施設利用に加え、地域開放や町民利用など、学校と地域がつながる学びの拠点としての活用を期待する意見も多く寄せられた。今後は、小中学校それぞれの利用環境や静かな読書空間に配慮するとともに、地域利用にも対応できる図書室の施設構成について検討を進めることが望まれる。

第1回委員事前アンケート集計結果

Q8.職員室について

小中学校別々の職員室を支持する意見がやや多く見られた。一方で、小中連携や情報共有のしやすさ、施設の効率的な利用を重視する意見も寄せられた。今後は、実施を予定している教職員ヒアリングにおいて、執務環境や学校運営上の課題・ニーズを把握した上で、職員室の施設構成について検討を進めることが望まれる。

Q9.保健室について

小中学校兼用と別々の整備が同数となり、意見が分かれる結果となった。一方で、児童生徒の発達段階やプライバシーへの配慮、保健室登校を含む多様な利用への対応の必要性については共通した意見が多く見られた。今後は、実施予定の教職員ヒアリングにおいて、利用実態や運営上の課題を把握した上で、必要なゾーニングやプライバシーの確保に配慮した保健室の施設構成について検討を進めることが望まれる。

Q10.学校の一部教室における地域開放について

図書室、多目的室、会議室への地域開放を望む意見が多く見られた。一方で、その他の特別教室についても地域利用を期待する意見が寄せられた。今後は、各諸室の利用実態や利用特性を踏まえ、小中学校での兼用や地域開放の可能性について、管理・運営方法やセキュリティにも配慮しながら総合的に検討を進めることが望まれる。

Q11.どのような条件が整えば納得できますか？

地域開放を行う上で、「管理・鍵の受け渡しルールの明確化」と「子どもの安全確保」が最も重要な条件として挙げられた。また、清掃・原状回復の責任や学校行事との調整、教職員の負担軽減など、円滑な施設運営を求める意見も多く見られた。今後は、地域開放を進めるにあたり、管理運営体制やセキュリティ対策、利用ルール等を整理し、安全かつ持続可能な運営方法について検討を進めることが望まれる。

Q12.特に気になること・大切にしてほしいことなど自由にお書きください。

地域開放については、学校を地域の資源として有効活用することへの期待が多く寄せられた。一方で、管理運営ルールやセキュリティ対策、教職員の負担軽減などを十分に整備した上で進めるべきとの意見も多く見られた。また、地域クラブ活動など将来的な利用も見据えた柔軟な施設計画や、町民・利用者の意見を反映しながら検討を進めることを望む意見も寄せられた。今後は、安全で円滑な管理運営体制を構築するとともに、小中学校での兼用や地域開放を見据えた施設計画について検討を進めることが望まれる。

アンケートまとめ

本アンケートでは、校舎の施設構成（一体型・分棟型）をはじめ、各諸室の配置・仕様、小中学校での兼用、地域開放のあり方などについて、多様な意見が寄せられた。今後は、**教育環境の充実や児童生徒の安全性を確保**するとともに、**将来的な児童生徒数の推移や建設・維持管理コストなどの財政的な観点**を踏まえ、**一体型・分棟型それぞれの特徴を比較・整理しながら、施設構成を検討**するとともに、**各諸室の配置・仕様や小中学校での兼用、地域開放を見据えた施設計画について総合的に検討を進める**。

また、本アンケート結果に加え、今後実施する町民ワークショップで得られた意見を集約・整理し、**基本構想及び基本計画**の策定に反映していく。

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q1.校舎のあり方について

① 1つの校舎に集約した方がよい：5 票

・小中学校は 1 つの校舎に集約する方向で検討することが望ましい ・建設コスト削減、維持管理等ランニングコストの縮減が見込まれる ・小中学校の生活空間はフロアやゾーンで明確に区分し、学習環境や生活リズムの違いに配慮が必要である ・動線計画において児童生徒が不必要に混在しないよう設計上の工夫を図る
・別棟に分けた方がよいと思うが、予算、今後の子供の数推移を考えると、集約でも良いかと思う
・既存のように一部屋で仕切るのではなく、フリースペースや間仕切りが移動でき広さを変えられるなどの可変性が望ましい ・四角い校舎ではない、南知多のランドマークになる斬新な建築物であって欲しい
・財政的に可能ならば別棟の方が良い ・節約とともに将来の子どもの数の減少を考慮すると集約した方がいい

②別棟に分けた方がよい：7 票

・小学校棟と中学校棟を向い合わせにし、それらを特別教室棟がつなぐコの字型のレイアウトが良い ・小、中学校の日課表のズレができると思うため、別棟の方が落ち着いて学習や生活ができる
・小学校と中学校は同じ敷地で別校舎が良い ・出来れば、音楽室、図書館も別々がいいと思うが、予算的に厳しければ特別教室は特別教室棟のような校舎があっても良い ・小学生と中学生、協力し合えれば、南知多のような小規模地域ならではの温かい、小回りの効く教育が実現出来ると思う ・しかし中学校 3 年生と小学校 1 年生では発達や体格差もあり、全てを 1 つにするのは課題が多いと思う ・特別支援学級をある程度集約し、縦割りにするなど良いかもしれないが、性問題が増える可能性がある。ただでさえ、顔見知りの子ばかりの関係性を持ち続ける状況のため、小中での気持ちの切り替えや、環境の変化も必要なのではないかと思う ・私学のように共通の理念の元に、経済格差もない子ども達が選んで集まる学校ではなく、町の義務教育の場所であること。 ・小規模ならではのユニークな取り組みが出来ると良い。
・教職員の負担のことを考えて②とした ・義務教育学校とするのであれば、話が変わってくる
・別棟で、左右に分け、中心に職員室や共有できる教室を配置する ・一般の方が利用できるスペースを作るなら一階部分に配置、諸室は 2 以上
・校舎を分けることで、小中の独自性が保たれる特別教室なども、小中が別々で使うことが学校運営上、問題が起こりにくいと思う
・小中一貫校として 1 つの校舎として整備するという一つの理由、コストを含めて 1 つの校舎を整備することは理解できる ・トイレの高さの問題がある(男子専用が必要となるか今後はわからない) ・先を見据えた場合を考えると計画地域を日間賀島と同じように複合施設として整備できるようにあらかじめ先を見据えた創り方を考えた場合、今は分棟にしてもいいのではないかと
・現状、小学校の統合について議論が始まっていない中、一つの校舎に集約することを前提とした議論はできない ・仮に建設に間に合う段階で小学校統合が決定した場合においても、時間帯によるセキュリティエリアの変更、運用の検討、地域開放エリアや小中共有エリアと専用エリアの設定など、さまざまな課題がある中で、一つの校舎なのか、別棟なのかを先行して決める必要があると思えない ・今後、基本設計や実施設計を行う中で事業費の目安を立てておきたいという前提があるとは思いますが、まずは南知多中学校がどう在りたいかを考えるのが先だと思う

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q2.プールについて

①新設したほうがよい：5 票

・ 既存学校のプールを使用する場合、管理面や授業の移動が相当大変である
・ 費用はかかると思うが、孫子の代まで使える事を考えた方が結果的にはコストダウンに繋がると思う ・ 海に面した地域であるからこそ水に親しみ、水を恐れない気持ちが必要だと思う ・ 新設して、学校が使わない時期は有料で一般開放し、町民プールとして、使えると良いと思う ・ 特徴が無ければ、採算を取るの難しいとは思いますが、東海市などは中学校はバスに乗って市民プールまで授業に行っていた。大変だが、武豊町のプールをお借りするとか、日福を借りるとか、検討していく価値はある
・ みさき小のプールは施設的に悪くないが、児童生徒のバス移動の負担や時間のロスが大きい ・ 旧豊浜中のプールを改修して使えないか ・ 南知多中のライフセービングは令和 14 年度までと考えている
・ 年に数回の授業なら、マイクロバスを使用し武豊の温水プールを利用させてもらうのがいいと思う
・ 予算の制約で難しいとは思いますが、現に豊浜小にはプールがなく、みさき小に行っている。両校とも人数が少ないのでマイクロバスでの輸送が整備されている本町では十分機能できていると思うが、小中が同じ校地内にあるのにプールがないというのは子供たちがかわいそうだと思う ・ 南知多中学がライフセービングを行なっているからプールを使用していないという紹介があったが、(今の学習指導要領は知らないが)それが、国や県の指導方針なのか。中学校の水泳指導の内容をライフセービングでクリアできるのか疑問がある

②既存学校のプールを改修したほうがよい：7 票

・ 既存学校のプールに日よけ等の対策を行い使用する方向で検討する ・ 新設には多大なコストがかかることから、熱中症対策として日よけ等の整備、鳥のフン害対策を優先する
・ プールはとても予算がかかるが、それでもプールの授業は是非残してほしい ・ 子供たちが水泳に触れる機会はとても貴重 ・ 南知多は周りに海が控えているため
・ 民間、内海高校、福祉大学などのプールの活用なども検討してほしい
・ どちらでもいい
・ 新校舎へのプール建設は不要と考える ・ 既存学校の改修に関しても、本当に必要なのか疑問である。野間小学校の児童が日本福祉大学のプールに行くように、例えば武豊町屋内温水プールを活用するなど、もう少し広い視野で施設を共有する考えが必要
・ 予算的に可能であれば一緒にプール建設もしたいが、当初の建設費を抑えるためにはやむを得ない ・ 時期をずらして建設したい

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q3.図工室・美術室・技術室について

①図工室・美術室・技術室は小中兼用でよい（1 室）：4 票

・美術の授業日数は少なく、3 部屋でなく、兼用で大丈夫ではないかと思う
・身体的に問題がなければ 1 つで問題ないのではないかと
・特別教室については、基本的に小中兼用でよいと考える ・ただし、特別教室に関する知識が乏しく、法律や規則等で学校に備え付けなければならないとされている特別教室の形態がわからない。 ・小学生向けと中学生向けで法律等求められる仕様が異なる場合、別々に作る必要もあるのかと思う ・今後議論が進み、学校施設の地域開放や部活動地域移行に対する開放も視野に入れる必要が生じる可能性を考えると、建築費を可能な限り抑える代わりに、柔軟な運用をしていくための備品購入費等に充てていく方が現実的かと思う

②小学校用図工室と中学校用美術技術室でよい（2 室）：3 票

・授業の頻度がわからないのでなんとも言えない ・電動の工具室は 1 つで良いと思う ・小学生が入っても危なくない環境が作れるのなら、1 箇所でもいい ・コーナー分けする等の工夫で、美術室と図工室は兼ねることができる
--

③3 室とも別々に作ったほうがよい：5 票

・図工室と技術室は、1 校だけでも時間割調整が大変 ・材料、作品の保管にある程度のスペースが必要 ・保管室も小中別々確保が必要
・質問の選択肢にその他があるといい ・美術室と技術室を兼ねることは難しい ・中学校の技能教科の教員には存在を知らせたくない選択肢 ・図工室は美術室と技術室両方の機能を兼ね備えているため、内容により美術室と技術室を使い分けるのであれば、兼ねることができると思う ・移動に時間がかからない配置を考える必要がある
・図工室と美術室は兼用が良いが、小中の机の高さが違うの事は問題だと思う ・技術室は別が良い
・小中兼用になれば当然特別教室も複数必要になる上に、使用計画やその時々の使用において不便が生じる

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q4.家庭課室・調理室・被服室について

①家庭課室・調理室・被服室は小中兼用でよい（1 室）：3 票

・身体的に問題がなければ 1 つで問題ないのではないかと
・特別教室については、基本的に小中兼用でよいと考える ・ただし、特別教室に関する知識が乏しく、法律や規則等で学校に備え付けなければならないとされている特別教室の形態がわからない。 ・小学生向けと中学生向けで法律等求められる仕様が異なる場合、別々に作る必要もあるのかと思う ・今後議論が進み、学校施設の地域開放や部活動地域移行に対する開放も視野に入れる必要が生じる可能性を考えると、建築費を可能な限り抑える代わりに、柔軟な運用をしていくための備品購入費等に充てていく方が現実的かと思う

②家庭科・調理室と被服室でよい（2 室）：8 票

・調理室は別々が良いが、作業台の高さ調整が必要、使用する調理器具が異なる ・調理室はシンクに蓋をして家庭科室と兼用可 ・被服室は会議室としても兼用可
・調理室、被服室には調理台とミシン等と、備え付ける物が違うため、1 室にするのは難しいのではないかと ・家庭科室は何をやる場所かよく分からないが、畳スペースの部屋のイメージのため、家庭科室としてではなく、別の用途で畳の部屋があると良いのではないかと ・小中は共有で良いと思う ・特別教室はよく事件現場になりやすいため、授業以外は閉鎖出来ると良い
・質問の選択肢にその他があるといい ・調理室と被服室を兼ねるのは良くないと考えます。 ・小学校は内容によって調理室と被服室を使い分けるのであれば、兼ねられると思う ・移動に時間がかからない配置を考える必要がある
・調理室は別とし、家庭科室と被服室は同一の部屋でいい
・わからない

③3 室とも別々に作ったほうがよい：1 票

—

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q5.理科室について

①小中学校兼用でよい（1 室）：6 票

・ 前回検討委員会の時に、理科室は使用頻度が高いので二部屋あった方が良いとお聞きましたが、先生方の意見もお聞きし、一部屋で大丈夫でしたら、一部屋でも良いと思う
・ 授業での使用頻度が多くなく、一度に大人数で使用する事がないのなら、一室にして、安全性や設備の充実を図った方が良いと思う
・ クラスの数によると思う ・ 時間割が組めれば良い
・ 身体的に問題がなければ 1 つで問題ないのではないかと
・ 特別教室については、基本的に小中兼用でよいと考える ・ ただし、特別教室に関する知識が乏しく、法律や規則等で学校に備え付けなければならないとされている特別教室の形態がわからない。 ・ 小学生向けと中学生向けで法律等求められる仕様が異なる場合、別々に作る必要もあるのかと思う ・ 今後議論が進み、学校施設の地域開放や部活動地域移行に対する開放も視野に入れる必要が生じる可能性を考えると、建築費を可能な限り抑える代わりに、柔軟な運用をしていくための備品購入費等に充てていく方が現実的かと思う

②小中学校別々がよい（2 室）：6 票

・ 小学校と中学校では実験内容、使用薬品、器具の難易度に大きな差があり、安全管理の観点からも分けることが適切 ・ 兼用可能としても 2 教室必要、時間割調整が大変、準備時間も必要
・ 小中兼用の準備室をはさんで 2 室にする
・ トータルの学級数によりますが、1 室で小中の理科を回すのは厳しいと思う ・ 薬品の管理上も小中別にすべき

Q6.音楽室について

①小中学校兼用でよい（1 室）：10 票

・ 美術室と同じく、授業日数が少なく、兼用で問題ないかと思う
・ 使用頻度は高いと思うが、広めの部屋で、2 クラス合同でも入室出来るほどのスペースを確保した 1 室にして、楽器や設備の充実を図った方がよいと思う
・ 移動に時間がかからない配置を考える必要がある
・ 兼用で良いと思うが、机の高さに問題があると思う
・ 身体的に問題がなければ 1 つで問題ないのではないかと
・ 特別教室については、基本的に小中兼用でよいと考える ・ ただし、特別教室に関する知識が乏しく、法律や規則等で学校に備え付けなければならないとされている特別教室の形態がわからない。 ・ 小学生向けと中学生向けで法律等求められる仕様が異なる場合、別々に作る必要もあるのかと思う ・ 今後議論が進み、学校施設の地域開放や部活動地域移行に対する開放も視野に入れる必要が生じる可能性を考えると、建築費を可能な限り抑える代わりに、柔軟な運用をしていくための備品購入費等に充てていく方が現実的かと思う

②小中学校別々がよい（2 室）：2 票

—

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q7.図書室について

①小中学校兼用でよい（1 室）：9 票

・ 1 つにして地域開放を行う
・ 豊浜小学校の様なオープンな図書室が良いと思う
・ 蔵書が被るのはもったいないため、1 室で良いと思う ・ 使用スペースは区切れるようにした方が良い。 ・ 静かに勉強したい中学生もいるだろうし、図書館は癒しだったり、逃げ場だったりすると思うため、静かな環境必須だと思う ・ 美浜町のように町民図書館になると町の目玉になって良いかと思う
・ 移動に時間がかからない配置を考える必要がある
・ 十分な広さを確保してほしい
・ 身体的に問題がなければ 1 つで問題ないのではないか
・ 特別教室については、基本的に小中兼用でよいと考える ・ ただし、特別教室に関する知識が乏しく、法律や規則等で学校に備え付けなければならないとされている特別教室の形態がわからない。 ・ 小学生向けと中学生向けで法律等求められる仕様が異なる場合、別々に作る必要もあるのかと思う ・ 今後議論が進み、学校施設の地域開放や部活動地域移行に対する開放も視野に入れる必要が生じる可能性を考えると、建築費を可能な限り抑える代わりに、柔軟な運用をしていくための備品購入費等に充てていく方が現実的かと思う

②小中学校別々がよい（2 室）：3 票

・ それぞれの年代にあった図書室の方が本を選びやすい

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q8.職員室について

①小中学校兼用でよい（1 室）：5 票

・教職員間の情報共有、連携システム、備品等の共有などコスト削減
・先生方の意見をお聞きたい ・小中一貫校で情報の共有しやすさを考えますと、兼用でも良いのではと思う
・わからない
・分けることの必要性やメリットが思い浮かばない ・先生方が職員室でどのようなお仕事をされているか、想像でしかありませんが、例えば「校舎を分けた場合に、教室から職員室が遠くなる」など、距離的な課題が出る可能性はある ・わざわざコストをかける必要はないと思う ・次の授業の準備のことを言うのであれば、授業準備室を各フロア等に設け、そこから持ち出すなどすることで解決できると思う ・学校の ICT 化も進む中で、そもそもこれまで通りの職員室が必要なのかについても検討していくべきかと思う ・空間に対する使用率が低く、空調費ばかりかかる職員室自体不要という考え方もできるのではないかと ・職員が顔を合わせる必要があるなら、一般開放もできる会議室で十分

②小中学校別々がよい（2 室）：7 票

・人数が大きくなると疲れるし、人の目も気になるため、先生にこそ、癒しのスペースや、ゆっくり作業していただく環境が必要だと思う ・ただ、小中全体で大きな市の小学校 1 校分の児童数であれば、教職員の数もそう多くはないか ・1 室に 100 人は多いと思う ・雑音も多くなると思うので、2 室作って、小学校、中学校と分けずに、経験年数や専門科目等で分けるなど、独自性があっても良いのではないかと ・教員も育成が大事だと思う
・一貫校では無いため、小中それぞれの管理職や責任者が必要 ・責任の所在や、指揮系統の混乱を防ぐという点でも、別々が良い
・小学校と中学校はそれぞれ発達段階に応じて、独自の校風を作っていくものだと思う ・兼用の小中学校職員室は想像できないし、デメリットしかないように思う
・先生の数にもよるが学習内容が異なるのに問題がないか ・先生達の意見を反映してあげるべき

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q9.保健室について

①小中学校兼用でよい（1 室）：6 票

- | |
|--|
| ・ 小学校、中学校では心身の発達段階や相談内容が大きく異なり、プライバシー確保のためのゾーニングは必要
・ 兼用の場合、養護教諭は 1 名になるのか確認が必要 |
| ・ 保健室の利用人数はどのくらいいるかを確認し、少人数であれば、兼用でも良いのではと思う |
| ・ 養護教諭や、嘱託医、備品の問題もあると思うため、共用でも良いと思うが、使用場所は別がいいのではないか
・ ある程度プライバシーを担保する場所であって欲しい
・ 問題も起きやすい場所だと思う |
| ・ 子供に対しての対応が年代で違うため、別々が良い |

②小中学校別々がよい（2 室）：6 票

- | |
|---|
| ・ 心身の発達度合いが異なることや、兼用にすることで広いスペースになりすぎると、養護教諭の目が届きにくくなると考えられるため、小中別が良い
・ 保健室登校など、登校に課題を抱えた児童や生徒に対応するための居場所に関しても検討する必要があることから、実情に合わせた柔軟な対応が可能になるよう、整理していく必要がある |
|---|

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q10.学校の一部教室における地域開放について/地域に開放してよいと思う室はどれですか？（複数選択可）

①積極的に行うべきである：3票

音楽室,図工室,美術室,技術室,多目的室,図書室,会議室
音楽室,図工室,美術室,技術室,多目的室,図書室,会議室
音楽室,図工室,美術室,技術室,多目的室,図書室,会議室

②図書室など限られた居室にするべきである：8票

多目的室,図書室,会議室
図書室,会議室
図書室,会議室
音楽室,美術室,多目的室,図書室
多目的室,会議室
図書室,会議室
多目的室,図書室
音楽室,多目的室,図書室

③消極的である：1票

図書室

計数結果

音楽室	4	美術室	4	多目的室	8	会議室	8
図工室	3	技術室	3	図書室	11		

Q11.どのような条件が整えば納得できますか？（複数選択可）

管理・鍵の受け渡しルールが明確であること	12
清掃・原状回復の責任が明確であること	10
学校行事と地域利用が重ならないよう調整できること	9
子どもの安全が確保されること（不審者対策等）	12
学校の教職員に余計な負担がかからないこと	9
利用料や運営費の仕組みが決まっていること	8
条件があっても開放には反対	1

第 1 回委員事前アンケート集計結果

Q12.特に気になること・大切にしてほしいことなど自由にお書きください。

・ 上記のすべて (Q11 選択肢)
・ 地域開放とは「住民 (町民)」に貸し出すということであると思うので ID 管理は徹底できるはず
・ 子供たちの大切な学び舎を、地域の方々と有意義に利用できたら、より新校舎も素晴らしい場所になるなと思う ・ しかし、ルールあつての利用だと思う ・ ルールがちゃんと守れるか、子供たちが安全であるか、先生方の負担が増えないか、様々な課題もあると思う ・ 実際に進めていき、課題に向き合い、新たに必要なルールをつくり、難しいようであれば、縮小、中止すればと思う
・ 保護者や町民が学校業務に踏み込みすぎるのはよくないと思う ・ 図書館など一部開放することによって地域と学校の距離感が縮まることによって学校行事などに理解が得られることもあると思う ・ 将来を見据えた時を考えた利便性のある建物が出来ることを期待している
・ 少人数であるが故のメリットを最大限に生かし、今だけでなく、未来に向けて、恒久的に使用出来る学校を建設して頂きたい ・ 目先の問題だけで作って、後でリフォームしていくのはかえって費用がかかる ・ 資材高騰時期に新校舎建設は厳しいけど、町の未来には必要なこと ・ 町民に理解を求めて、保護者と子ども達だけでなく、全ての町民の資源となる建物にしていきたい
・ 地域クラブ B が令和 15 年度にどうなっているかわからないが、校内の施設が条件付きで使える構造になっているとよい
・ 第 1 回目に参加できていないため、大前提のところが抜け落ちていたら申し訳ないのですが、我々委員の役割は何でしょうか。町の提案を委員会が承認したことで町民の理解を得られたとするのか、あくまでも叩き台を作るために当事者の意見を聞く場なのか、どのような立場かによって、責任の度合いがかなり異なる。責任が重い場合、先日お送りいただいたレベルの情報では全く足りず、より細かな部分のやり取りを求めたい ・ 保護者当事者ということ言えば、令和 15 年度に小中学生の児童・生徒が家庭内に居る方の意見を聞くべきであるにも関わらず、委員の中にどれだけ要件を満たす方がいるのか疑問である ・ 誰かのせいにするのではなく、ちゃんとみんなで考えた、みんなの南知多中学校にできるよう知恵を出し合っていきたい
・ 会議室、多目的室など一般の人が利用できるように、階を揃えて配置するのが良いと思う ・ 配膳室、給食室は合同で良い

事例視察報告

令和8年7月7日に、小中複合施設の先進事例視察を実施しました。視察では、学校施設の整備や運営に関する先進的取組について確認するとともに、施設見学や意見交換を行いました。

○ 飛島村立飛島学園

1. 施設概要

- ・所在地 愛知県海部郡飛島村大字松之郷三丁目 21 番地
- ・開校年度 平成 22 年 小中一貫教育校として開校 令和 2 年義務教育学校として開校
- ・学校規模 校地面積 42,856 m² 延床面積 12,085 m²
- ・生徒数 前期課程（1～6 年生）254 名 後期課程（7～9 年生）149 名 計 403 名
- ・校舎 施設一体型

2. 事前質疑回答

質問	回答
同じ建物で、小学生・中学生と一緒に学んでいることの、メリット・デメリットは、それぞれ何ですか。	生徒においては、授業や活動の中で多くの教師との関係ができ、安心して学校生活を送ることができている。また、中学生の姿に憧れる小学生、小学生に関わる中学生という関係により、憧れ効果、思いやり効果が生まれます。教職員においては、小学校のみ、中学校のみしか経験のない教員にとっては、入学式の姿から9年生までの姿を描くなど、より発達段階を意識して生徒の指導に当たることができるようになっています。
日課表について 初等部と中高等部の日課で、5分のズレが生じていますが、休憩時間中の初等部の児童の声や物音などは2階の中高等部まで届かないのですか？（初等部が5分早く休憩時間となる）	初等部は1階フロアに配置し、中・高等部は2階フロアに配置されています。階が異なることと中・高等部は、オープンスペースではないことと教室と廊下の間にワークスペースがあるため、休憩時間中の声が届くことが少なくなっています。
地域住民へ開放している施設はありますか。	運動場を、村民体育祭、スポーツ協会の交流会など、申し出があった場合に年数回貸し出しています。開放をしている施設はありません。
理科室・家庭科室・音楽室・図工室・多目的室などの特別教室は、小中でどのように共用されていますか。その配置（校舎内の位置）を決める際に意識されたことと、時間割調整や備品管理で生じた課題があれば教えてください。	校舎北側に配置し、どの学年もアクセスしやすいようにしました。時間割調整や備品管理では、大きな課題はありません。
小学校低学年と中学生が同じ校舎内で活動するにあたり、「年齢の違いによる安全面の配慮」として、動線・階層（フロア）の分け方や見守りのしやすさなど、設計上どのような工夫をされましたか。運用してみて有効だった点・改善したい点を教えてください。	初等部ユニット（1～4年生）を1階東側に配置し、2学年ごとにまとめ、メディアセンターと共になかよし広場を囲う形で回遊動線を形成しています。中高等部ユニット（5～9年生）を2階西に配置し、それらを結ぶ通路に添って多目的に使えるメディアセンター・少人数教室を配置しています。
小中一貫（義務教育学校）の校舎整備にあたり、セキュリティ確保と特別教室の共用を両立させる上で、「これから整備を考える自治体はここだけは押さえておいた方がよい」というポイントや、「設計段階で必ず学校側とすり合わせておくべき事項」があれば、行政担当の立場からアドバイスを願います。	体育の授業で、複数学級・複数学年が重なることがあるので、同じ時間帯でも実施できるように運動場、体育館の広さを確保できるとよい。また、特別支援学級の増設などに対応できるように多目的室を複数設計しておくとうい。

3. 視察写真



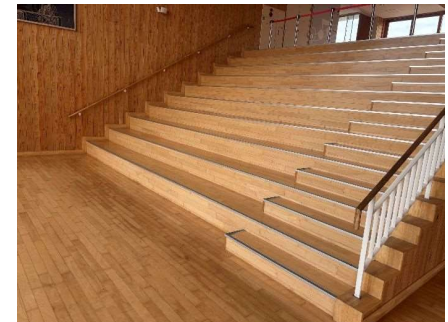
オープン型クラスルーム



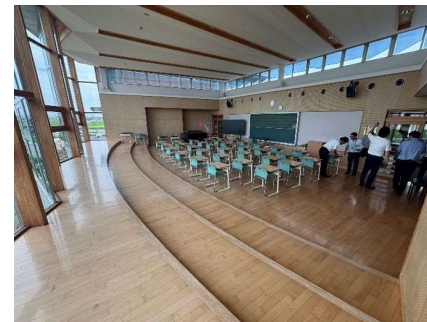
初等部との間仕切り部分



ランチルーム



段差の違いを作った階段



音楽室



家庭科室と図工室

○ にじの丘学園

1. 施設概要

- ・所在地 愛知県瀬戸市中山町1番地の57
- ・開校年度 令和2年 小中一貫校として開校
- ・学校規模 校地面積 82,345㎡ 延床面積 12,134㎡
- ・生徒数 小学校(1～6年生)877名 中学校(1～3年生)330名 計1,207名
- ・校舎 施設一体型

2. 事前質疑回答

質問	回答
同じ建物で、小学生・中学生と一緒に学んでいることの、メリット・デメリットは、それぞれ何ですか。	メリットとしては、中学生が下級生と日常的に触れ合うことで優しさや思いやりの気持ちが育成されることや、小学生・保護者にとって中学校進学時の環境変化による不安(中1ギャップ)が軽減されることが挙げられます。また、教職員間でも情報共有がスムーズになり、9年間を見通した系統的な指導が可能となります。 デメリットとしては、小学6年生が最高学年として活躍する場面が限定され、リーダー性や責任感の育成のタイミングが難しいことが挙げられます。また、就学時健診や中学校の部活動・行事など、各校種特有の活動によって施設使用や日程調整に制限がかかる点も課題です。
学校行事で、小学校と中学校で分けているもの、一緒に行っているものは何ですか。また、メリットやデメリットについても教えてください。	文化祭(学園祭)、授業参観や個人懇談は小中一緒に行うことを基本とし、体育祭(運動会)、各種健診などは小中別で実施しています。授業参観は駐車場の問題もあり、学年を分けて3日間設定しているが、兄弟関係を考慮し、該当学年でなくても参観できるように案内している。 メリットとしては、兄弟姉妹がいる家庭にとって学校行事での来校が1回で済むことや、異学年交流の機会が増えることが挙げられます。デメリットとしては、行事の際に行う施設利用の調整(例えば、小学校の就学時健診で体育館を使用するため、中学校の部活動が行えないなど)が教職員の負担となることや、駐車場確保が難しくなる点が挙げられます。
図書館(ライブラリー)多目的スペースは、地域や子どもたちの交流が自然に生まれる場所とあるが、地域住民に開放しているのですか。導線は児童生徒と分かれているのですか。(休日のみの開放ですか？)	図書室は土日祝日の10:00～15:00に「地域図書館」として地域住民に開放されています。開放時には、昇降口とは別の1階の通用口を利用することで動線を分離し、格子戸や可動式の仕切りによって教室棟へ行けないようにセキュリティを確保しています。
小学生・中学生が共用している教室、建物は何かありますか。	体育館(大・小に分かれている)、プール(25mと小プールに分かれている)、図書室(ライブラリー)、理科室、調理室、被服室、音楽室、図工室・美術室、メディアルームなどを共用しています。また、職員室も小中合同で1室となっています。
特別教室など共用使用の際、高学年と低学年では体格差により、支障はないですか。	小中学校間で体格差があるため、机や椅子の高さなどの什器の問題が生じることがあります。また、異なる校種が同じ特別教室を共用するため、時間割の調整が大変であるという現場の声が挙がっています。
小学生低学年と中学生では大きく体格が違うが、どのようにしているのか。例えば、共用する特別教室の机やイスはどうしているのか。音楽室、理科室など2つあるのは小学生用中学生用なのでしょうか。	共用する特別教室の机や椅子は、基本的に小中共通のものを使用しています。一部では、高さを調整できる可動式のものを購入したり、小中どちらが主に使用するかで高さを変えたものを購入したりするなどの工夫がされています。理科室や音楽室が2つある場合も、基本的には小学生が使用する教室、中学生が使用する教室と大まかに分けて使用されています。

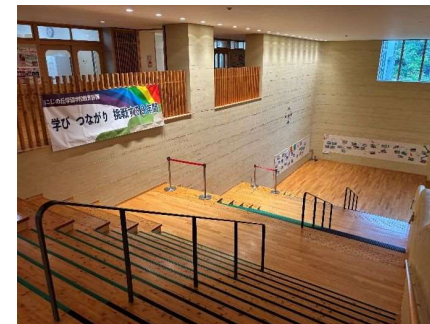
にじの丘学園における小学校部・中学校部の教室配置や共用スペース(図書館、特別教室、多目的スペース等)のゾーニングについて、一貫校として特に工夫された点と、運用してみて見えてきた改善点を教えてください。

工夫した点としては、3教室を1ユニットとし、間に多目的室を挟むことで学年のまとまりを作り、児童生徒数の変動に柔軟に対応できる構成にしたことです。また、低学年ユニットは落ち着いた中庭の近くに、高学年になるほど特別教室に近い配置とし、小中学校のエリアは明確に分け、間に1教室分の空きを設けて運用しています。
改善点としては、普通教室の木質フローリングが机や椅子の移動で傷つきやすく、水拭きもできないためメンテナンスに苦慮している点や、吹き抜けや高所の窓など清掃が困難な箇所がある点などが挙げられています。

3. 視察写真



全校生徒が使用する昇降口



昇降口すぐ段差の違う大階段



広い廊下スペース



普通教室



トイレ前に設置されたベンチ



地域開放している図書館

第2回南知多町立建設検討委員会 グループワークについて

南知多町立学校の基本構想・基本計画の策定にあたっては、委員の皆様から多様なご意見や考えを伺い、今後の検討に反映していくことが重要であると考えています。そのため、第2回検討委員会では、参加者同士で意見交換を行うグループワークを実施いたします。

当日の議論を円滑に進めるため、事前に配布したアンケート結果および事例紹介をご確認いただき、本シートにご意見をご記入のうえ、当日ご持参くださいますようお願いいたします。

テーマ① 校舎の建設方式について	
小学校・中学校を「同一棟」とする場合に期待すること・懸念すること	
目的	小学校・中学校を同一棟とする場合の期待や懸念を整理し、今後の施設整備の検討に活かすため意見を収集いたします。 ※事前配布資料（資料-1、資料-6、資料-8）をご覧ください、期待することや懸念することをご記入ください。「その他」欄には、自由なご意見をご記入ください。
期待すること	
懸念すること	
その他	

テーマ② 地域開放の方向性について 「学校施設の地域開放の方向性を考える上で、大切にすべきこと」	
目的	学校施設の地域開放について、多様な視点から大切にすべきことを共有し、今後の方向性を検討するための考え方を整理するための意見を収集いたします。 ※事前配布資料（資料-7）をご覧ください、自由なご意見をご記入ください。
大切にすべきこと	

なお、これらのテーマは、本基本構想・基本計画における重要な検討事項であり、**今後実施を予定している町民ワークショップ**においてはテーマ①の「校舎の建設方式」を取り上げ、「**地域開放でやってみたいこと**」を2つ目のテーマとして意見交換を行う予定です。（資料-9 参照）

当日は、ご記入いただいた内容をもとにグループで意見交換を行い、その内容を全体で共有します。

いただいたご意見は、今後の基本構想・基本計画の検討に活用させていただきますので、ご協力をお願いいたします。また、委員会終了後、本紙は回収させていただきます。

第3回議題案(事務局資料)

テーマ② 地域と学校の関わり方について考える

「今後地域と学校がどのように関わっていけるのか」

目的	学校と地域の望ましい関わり方について意見を共有し、学校施設の活用や地域との連携の方向性を整理すること
望ましい関わり方	

「小中同一棟」と「小中別棟」の比較

1. アンケートでの意見を軸とした比較表

アンケート出た懸念事項に対し、「小中同一棟」及び「小中別棟」の各案でどのように対応できるかを以下の通り整理しました。

検討項目	アンケート出た課題事項	小中同一棟	小中別棟	評価
①学習・生活環境の独立性	小中の日課表の違い、休み時間、生活音、体格差により、落ち着いた学習・生活環境が保てるか。	○対応可 小学校ゾーン・中学校ゾーンを階または左右の棟で分けるなど、昇降口・階段・廊下を分離すれば対応可能。運用面で共用部の使用時間も調整するなどできる。	◎有利 建物が物理的に分かれるため、生活音や生活時間の違いによる影響を受けにくく、心理的な切り替えもしやすい。	学習・成果環境の分独立性は別棟が有利
②施設・設備の適正化 トイレ・更衣室・特別支援・共用部	小中の体格差に応じたトイレ等の設備、特別支援教室の落ち着き、特別教室の使い分けが必要。	○対応可 小学生用・中学生用のトイレ、更衣室、教室の大きさをゾーンごとに整備できる。特別支援教室は静かな位置に配置するなど対応は可能である。	○対応可 小中別の設備を設けやすい一方、特別教室等を重複整備すると面積・コストが増える。共用棟を設ける場合は移動動線が課題となる。	設計条件によるが、工夫で十分に対応可能
③段階整備・将来性 児童生徒数の減少	小学校移転時期が未確定な中で、先に校舎形態を決めてよいか。将来の児童生徒数減少や複合化に対応できるか。	◎有利 将来の少子化により児童生徒数が減少した際も、ひとつの建物であるため間仕切りの変更等が容易であり、柔軟に用途転用しやすく、施設全体を無駄なく一体的に活用できる。	△課題あり 各棟が小中それぞれの専用となるため、将来児童生徒数が減少した際に、使わなくなった諸室を他用途へ転用する場合も棟ごとの運用となるため、将来の変化に対する柔軟性が乏しい。	将来対応は同一が有利
④コスト・敷地利用 建設費・維持管理費・外構計画	財政負担を抑え、将来の維持管理費を縮減しながら、グラウンド・駐車場・地域利用スペースを確保したい。	◎有利 共用部、設備、管理機能を集約しやすく、建築面積や外壁・設備の重複を抑えやすい。敷地内にまとまった外部空間を確保しやすい。	△課題あり 棟数が増えると基礎、外壁、設備、外構が重複し、初期費用・修繕費が増えやすい。まとまった外部空間は確保しづらい。	財政面は同一が有利

比較表のまとめ

「小中別棟」は小中学校の機能を分ける上で強みがあります。一方で「小中同一棟」は将来対応性やコスト面、敷地利用に強みがあります。小中同一棟では学習・生活環境の独立性や施設・設備の適正化の面も対応可能なため、小中同一棟を基本にしつつ、教育・生活面の懸念を整備方針や設計条件で解消するのが有効だと考えます。

2. 詳細項目別比較表

【教育・生活・安全面】

詳細項目	課題事項	小中同一棟	小中別棟	評価
生活リズム・時間割の違い	小中で授業時間、休み時間、チャイム、活動音が異なり、学習環境が落ち着かないのではないかな。	○ 小中学校の教室ゾーンを離し、共用部の利用時間を調整することで対応可能。	◎ 物理的に分かれるため、互いの時間割の違いによる影響を受けにくい。	小中別棟がやや有利
発達段階・体格差	小学 1 年生と中学 3 年生では体格差・行動範囲・心理面の違いが大きい。	○ 低学年エリア、小学生専用トイレ・遊び場、小中別階段を設けることで対応可能。	◎ 小中学校の生活圏が自然に分かれ、安心感が高い。動動線が課題となる。	小中別棟がやや有利
動線の混在	登下校、廊下、階段、昇降口で児童生徒が不要に混在しないかな。	○ 昇降口・階段・廊下などのメインの動線を小中学校別に設定することで対応可能。	◎ 棟が分かれるため、動線分離が分かりやすい。	設計で対応可能
特別支援・相談環境	小中学校それぞれに、落ち着ける特別支援教室、相談室、個別対応スペースが必要である。	○ 小中学校別の専用室又は近接した個別対応室を確保する。静かな位置、見守りやすさが重要である。	○ 小中学校別に確保しやすいが、相談・支援体制の連携には移動が生じる。	設計で対応可能
トイレ・更衣室	トイレの高さ、男女別、プライバシー、更衣場所への不安がある。	○ 小学生用・中学生用・職員用を明確に分ける。低学年用設備を専用ゾーンに置く。	◎ 棟ごとに専用化しやすく、分かりやすい。	小中別棟がやや有利
小中学校それぞれの独立性	小学校らしさ・中学校らしさが失われないか。気持ちの切り替えができるかな。	○ 入口、サイン、内装、教室のまとまり、掲示スペースで学校段階ごとの雰囲気をつくる。	◎ 校舎が分かれることで独立性を確保しやすい。	小中別棟がやや有利

【施設管理・財政面・将来対応性】

詳細項目	課題事項	小中同一棟	小中別棟	評価
建設費	財政的に可能なら別棟がよいという意見がある一方、建設コストへの懸念もある。	◎ 玄関、管理諸室、設備、共用部を集約しやすく、建物全体をコンパクトにできる。	△ 棟数が増えることで、基礎、外壁、設備、外構整備の個所が増加する。	小中同一棟が有利
維持管理費	将来にわたるランニングコスト、修繕費、清掃・管理の負担を抑える必要がある。	◎ 空調、電気、給排水、警備、清掃を一体管理しやすい。	△ 棟ごとの設備管理・修繕が必要になりやすい。	小中同一棟が有利
特別教室・共用施設	音楽室、理科室、図書室、体育館等をどう使うか。小中学校の独自性も重要である。	◎ 共用により施設水準を高めやすい。コスト面の削減も期待できる。	○ 共用棟を設ける方法もあるが、移動距離や天候、時間割の調整が必要である	設計条件で対応可能
教職員の連携・負担	教職員の負担増を心配する意見がある。小中学校の連携や支援体制をどう組むか。	○ 職員室・会議室・相談室の配置次第で連携しやすい。管理範囲の分担など運用面での調整が必要。	○ 小中学校別の管理はしやすいが連携は移動や時間割の調整が必要である。	設計条件で対応可能
段階整備	まず中学校として開校し、後に小学校が移転する流れにどう対応するか。	◎ 電気・給排水・通信などのインフラ設備や受変電設備を集約しやすいため、インフラ整備費や仮設工事費を抑えやすい。また、敷地をコンパクトに使えるため、将来の地域開放に向けた駐車場等を広く確保できる。	△ 棟ごとに足場やクレーンが重複し、仮設費用が増加する可能性がある。また、各棟をつなぐ渡り廊下やインフラ整備計画等に制約があり、工程が複雑化する可能性がある。	小中同一棟が有利
将来対応への柔軟性	将来の子どもの数の減少、フリースペース化、複合施設化、地域のランドマークへの期待にどう対応するか。	◎ 空き教室の転用、間仕切り変更、地域開放、複合施設化に対応しやすい。	△ 棟ごとに余剰が出ると、使いにくい空きスペースが生じる可能性がある。	小中同一棟が有利

地域開放の方向性と検討する諸室

1. 地域開放の方向性

児童生徒の安全安心な教育環境、適切な学校運営ができる状態を確保しながら、特別教室等を地域開放し、地域社会のつながりや活力を育む新たな拠点、地域の方が自然に集えるような開かれた学校づくりを目指します。

2. 地域開放を検討する諸室

南知多中学校と豊浜小学校の授業時間数(R8年度)、アンケート調査結果をもとに、地域開放が可能な部屋と、整備にあたっての方針を整理しました。

- ・ 図工室
- ・ 美術室・技術室
- ・ 家庭科室(調理室・被服室)
- ・ 音楽室
- ・ 図書室
- ・ 多目的室
- ・ 会議室

3. 地域開放にあたっての課題と対応策

アンケート調査では、地域開放をする場合に懸念される点も挙げられました。

(1) 懸念点

- △地域の方が利用するうえで必要なルールを作る必要性がある。
- △責任の所在をどのように分担するか。
- △不審者の侵入を防ぐために必要なことは何か。
- △図書室について、貸し出し可能な図書を選定する必要性がある。

これらの懸念点に対応するための方策を考えていく必要がありますが、他市の学校で行われている対応策の事例を紹介します。

(2)対応策の事例

一定のルールを設けて学校運営に支障のないようにしたり、校舎を工夫して児童生徒の安全を守るようにされています。

【ルールの事例】

- ・利用者は事前に登録する
- ・利用者は3人以上の団体
- ・使用料を取る

【校舎を工夫した事例】

- ①学校関係者が使うエリアと地域の方のエリアを分ける
- ②見通しのよいフェンスを設置する
- ③地域専用の出入口を設ける
- ④各教室に通報ボタン(職員室につながる)を設置する
- ⑤防犯カメラを設置する

②フェンス	③地域専用出入口	④通報ボタン	⑤防犯カメラ
			

(出典：文部科学省 各学校等の防犯対策事例

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/06030611/004/006.htm)

学校施設と公共施設の複合化事例

No.	所在地	学校名	複合化施設	地域開放
1	石川県	かほく市立宇ノ気中学校	市立体育館	中庭、技術室・P C 室・会議室・音楽室
2	愛知県	高浜小学校	体育館、公民館、児童センター	集会室、和室、特別教室（図工室、家庭科教室、多目的室、音楽室）
3	愛知県	新城市立作手小学校	地域交流館（図書室、調理室、ホール、学童保育）	ランチルーム
4	新潟県	聖籠町立聖籠中学校	地域交流棟	音楽室、美術室、技術室、家庭科 室、ランチルーム
5	埼玉県	志木小学校	公民館、図書館	研修室、ホール、体育館
6	山口県	下関市豊北中学校	図書館	体育館・音楽室・美術室・技術室・家庭科 室、図書館
7	富山県	南砺市立利賀小・中学校	公民館	体育館
8	滋賀県	近江八幡市立桐原小学校	コミュニティセンター、学童保育	屋内運動場、多目的ホール
9	静岡県	ながふじ学府小中一体校	学童保育	図書室、ランチルーム、地域連携室
10	千葉県	市川市立第七中学校	文化ホール、保育所、ケアハウス、老人デイサービスセンター	体育館、オープンスクエア（小体育館）
11	京都府	京都市立京都御池中学校	保育所、高齢者福祉施設、行政オフィス、賑わい施設	体育館、サブアリーナ、和室等
12	神奈川県	秦野市立西中学校		

●事例 01：かほく市立宇ノ気中学校、かほく市宇ノ気体育館	
所在地	石川県かほく市森レ 1 番地
施設構成(床面積)	中学校 (8,283 ㎡) 市立体育館 (4,488 ㎡)
構造・階数	校舎：RC 造地上 4 階、体育館 RC 造(一部鉄骨造)3 階
整備時期	平成 19 年
学校規模	14 学級 490 名 (特別支援学級／3 学級 9 名)
事業概要	町には正式なバスケットボールコートを 2 面有する体育館がなく、また、総合型地域スポーツクラブの活動拠点(クラブハウス)がなかったことから、中学校の改築を機に社会体育施設との複合化を計画した。
事業手法	(土地、建物所有関係：かほく市)
事業費	・学校施設(校舎)工事費：20.4 億円 →公立学校施設整備費国庫補助金と安全・安心な学校づくり交付金を活用 ・体育施設(体育館)工事費：約 11.5 億円 →市単独事業として整備(合併特例債を充当) 合併特例債は、事業費の 95%を充当、内 70%が国の負担
管理・運営の体制	・学校施設の管理は学校と教育委員会が行い、社会体育施設の管理は指定管理者制度により総合型地域スポーツクラブに委託している。 ・学校開放を含め、施設の貸し館調整や入退出の管理は指定管理者(総合地域スポーツクラブ)が行っている。 ・光熱水費など維持管理費は、指定管理料に含まれている。 ・主に中学校が利用する体育館アリーナ部分の光熱水費分は市が直接負担。 ・体育館は学校活動を優先し、事業上 9:00~19:00 は予約不可。
特徴	《学校教育活動への効果》 ・中学校は、バスケットコート 2 面取れる広い体育館の利用が可能となり、天候に左右されずに、屋内での練習が可能となった。 ・総合型地域スポーツクラブの外部人材が学校のゲストティーチャーとして参加、生徒は学校の授業で、ヨガやエアロビクスの体験が可能。 ・スポーツクラブの外部人材が、部活動の外部指導者として指導が可能。先生が指導を担わなくてもよく、生徒は専門的な指導を受けられたため、教師や生徒にとって有益である。 ・従来部活動のなかったサッカーも、総合型地域スポーツクラブへの参加を部活動に準じた扱いとして認めている。 《市・地域への効果》 ・総合型地域スポーツクラブ「クラブパレット」の拠点設置により活動が活性化した。 ・指定管理者が設置したカフェがあり、更なる集客を図っている。 ・市からの管理運営委託料は、総合型地域スポーツクラブの貴重な収益源。 ・指定管理者が学校開放の管理をすることで、地域住民の利用が容易となった。 ・体育館の整備を 1 つにできたことにより、市の財政上も効果があった。
防犯対策	・生徒及び住民が混在する敷地へのアプローチは、地域の人と生徒との触れ合いによる防犯上の利点が多いと判断し整備。

- ・学校側の玄関は原則として施錠。
- ・職員室は玄関や生徒、市民の出入りを見渡せる位置に配置。
- ・体育館と学校施設の連結部には、施設管理のために格子状の扉を整備。

写真・配置図

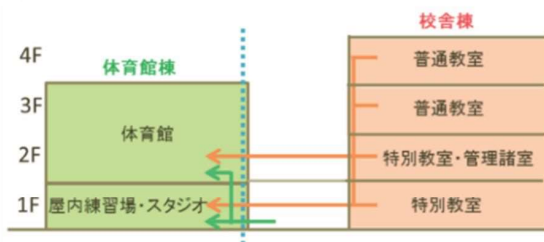


外観



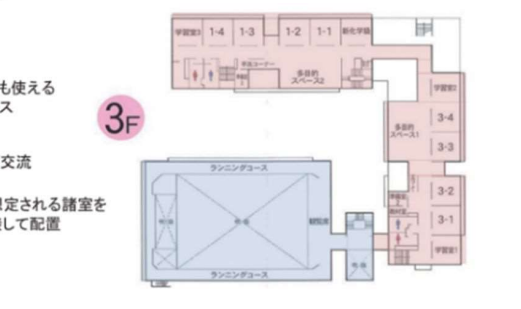
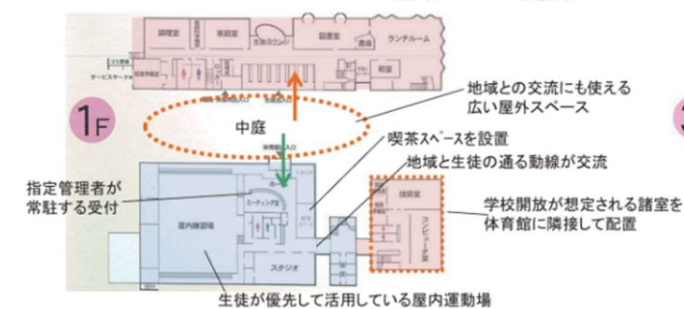
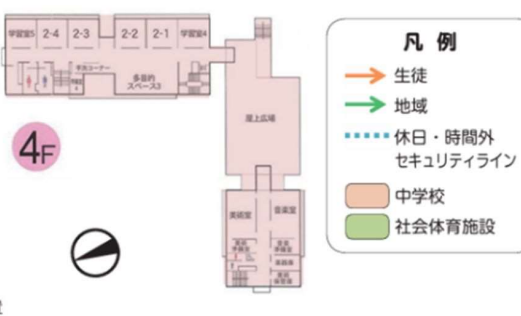
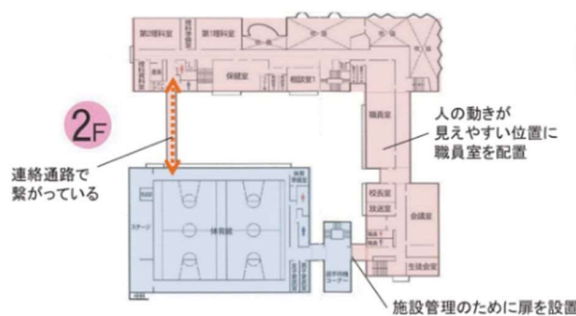
体育館内部

<立面図>



→ 生徒 → 地域
 凡 例 休日・時間外セキュリティライン
 〇 中学校 〇 社会体育施設

<配置図>



※参考 URL <https://www.city.seki.lg.jp/cmsfiles/contents/0000001/1788/H29kokyoshisetsu.pdf>

●事例 02：高浜小学校・高浜市地域交流施設『たかぴあ』	
所在地	高浜市青木町六丁目 1 番地 1 5
施設構成（床面積）	小学校（校舎:約 6,800 ㎡、屋内運動場:約 3,500 ㎡、屋外運動場：約 7,000 ㎡） 地域交流施設（地域広場:約 250 ㎡ 公民館:約 1,100 ㎡ 屋内運動場:1,200 ㎡）
構造・階数	RC 造 3 階
整備時期	公民館（平成 31 年）、小学校（令和元年）、体育館、児童館（令和 2 年）
学校規模	20 学級 608 名(特別支援学級／3 学級 14 名)
事業概要	市立高浜小学校の老朽化を契機に、公共施設の再編を企図。かねてより小学校区を単位とした地域の活動拠点となっていたことから、小学校を核に、公民館機能等（体育館、集会室等）を集約する形で施設整備を行った。
事業手法	PFI のうち BTO 方式（サービス購入型）を採用 事業期間：PFI 事業 H29～R15(15 年)、運営事業：H31～現在 （PFI 事業者（SPC）：あおみが丘コミュニティ株式会社。 構成企業は株式会社近藤組、株式会社浦野設計、サンエイ株式会社、都築建設工業株式会社、株式会社西 三河エリアワン）
事業費	約 48 億円 ・学校体育館：学校施設環境改善交付金（文部科学省） ・児童センター：子ども・子育て支援整備交付金（厚生労働省） ・校内の木製設備：木の香る学校づくり推進事業（愛知県：当時）
管理・運営の体制	・学校開放諸室の窓口を地域交流施設に集約 ・PFI 事業者からの 10 年間の施設・設備の維持管理計画を提案、高浜市からはそれを実施可能なサービス購入料が支払われている。
特徴	・児童から提案を募ってサインをデザインするなど、「みんなでつくる施設」を実践 ・高浜小学校体育館（メインアリーナ）体育の授業や発表会等で使用し、学校利用時間外は地域の人も利用可能。 《学校教育活動への効果》 ・学校関連窓口の一本化による学校現場の負担軽減 ・小学校児童が放課後に児童センターをワンストップに活用可能 《市・地域への効果》 ・施設集約化による、廃止施設の管理コストの削減→事務負担の軽減 ・PFI 導入による財政支出の平準化 ・体育館・集会室等公民館機能が集約されたことで、市民がワンストップに活用でき、市民団体との連携・一体利用も可能となった。 ・小学校の音楽室等は児童が使用していない時間に市民利用が可能。
防犯対策	・小学校と、児童センター・体育館等との出入口を分けることで、生徒と施設利用者の動線を分離し、セキュリティを確保。 ・館内にセキュリティゲートを設置し、小学校の防犯性を高めている。

写真・配置図



外観



体育館



エントランス



音楽室（地域開放）



参照：<https://kominkan-support.mext.go.jp/case-study/takahama.html>

高浜市地域交流施設 たかぴあ - 高浜市ホームページ

<https://www.city.takahama.lg.jp/soshiki/bunka/767.html>

●事例 03：新城市立作手小学校＋地域交流館 作手総合支所『つくで交流館』

所在地	愛知県新城市作手高里縄手上 3 2
施設構成（床面積）	小学校（3,198 m ² ） 地域交流館（1,169 m ² ） 支所（791 m ² ）
構造・階数	木造、RC 造、S 造 ・地上 1 階
整備時期	平成 29 年 4 月
学校規模	小学校：68 名（2022 年 5 月 1 日現在）
事業概要	つくで交流館、作手小学校、作手総合支所の 3 施設は、作手総合施設整備事業として実施され、旧開発センター跡地に作手総合支所が建てられ、旧作手総合支所跡地に開発センターの代わりのつくで交流館と旧作手地区の 4 小学校の統廃合に伴う作手小学校の複合文化施設が建設された。 木造部分には地元産ヒノキやスギの木材から無垢材や集成材を使用。 設計段階から、子どもや地域住民、関係機関でワークショップを実施し、活動や想いを育み、地域と子どもが育ち合う共育の場を目指した。
事業手法	—
事業費	—
管理・運営の体制	直営
特徴	・「ランチルーム」は子どもや地域の多彩なイベント展開の場として利用可能。 ・音響設備の整ったホールはなかったため、プロの演奏会にも利用できるホールを整備。 ・教室は中庭から離して配置することで、落ち着いた学習環境を確保。 ・「調理室」では、作手の料理人や食に関わる仕事をする人たちによる調理部会が、子どもたちを対象にした料理教室などを定期的に開催。 ・計画段階で行っていた WS は、運営開始後も調理部会、図書部会、音楽部会といった活動組織が互いに連携を生み出し、充実した地域活動へと発展している。
防犯対策	「中庭」を緩衝帯として互いの活動の様子を垣間見ることができるような配置となっていることで、地域の目が防犯の役割も担っている。

写真・配置図等



周囲の山並みになじむ外観デザイン。 写真提供：株式会社東畑建築事務所



ホール（交流館）



玄関代わりの土間



交流館（左）、中庭（中央）、小学校（右）

https://www.tkbj.jp/49_1_tsukude.html 参照

事例紹介：作手小学校・つくで交流館 | トピックス | こどもが変わる 学校が変わる 図書館づくり

●事例 04：聖籠町立聖籠中学校

所在地	新潟県聖籠町																															
施設構成（床面積）	中学校（12,060 ㎡） 地域交流棟（2,893 ㎡）																															
構造・階数	RC 造（2 階木造）…地上 2 階																															
事業概要	・町内の 2 校の中学校の統合に当たり、統合中学校建設推進委員会に町民が積極的に参加した結果、「生涯学習施設としての機能を持ち、地域に開かれた学校」を目指すこととなり、地域交流棟の整備につながった。 ・文教施設のインテリジェント化に関するパイロットモデル研究事業対象校																															
学校規模	12 学級 406 名（特別支援学級／3 学級 16 名）																															
事業手法	—																															
事業費	約 70.1 億円 建設費：約 58.4 億（国庫補助金：約 12.5 億円、起債額：約 2.2 億円、一般財源：約 23.8 億円） 通学路の整備費：約 9.3 億円、情報機器・ネットワーク関係（5 年リース）：約 2.4 億円																															
管理・運営の体制	・学校開放を含む地域交流棟の運営は、常駐するボランティア団体に委託。（運営費用は教育委員会が支出） <table><tr><th rowspan="2">施 設</th><th colspan="4">利用時間（平日）</th><th rowspan="2">所 管</th><th rowspan="2">管理・運営</th></tr><tr><th>8</th><th>12</th><th>17</th><th>22</th></tr><tr><td>中学校</td><td colspan="4"></td><td>教育委員会</td><td>中学校</td></tr><tr><td rowspan="2">地域交流棟</td><td colspan="4"></td><td>教育委員会</td><td>ボランティア団体</td></tr><tr><td></td><td></td><td colspan="2"></td><td>教育委員会</td><td>町長部局</td></tr></table>	施 設	利用時間（平日）				所 管	管理・運営	8	12	17	22	中学校					教育委員会	中学校	地域交流棟					教育委員会	ボランティア団体					教育委員会	町長部局
施 設	利用時間（平日）				所 管	管理・運営																										
	8	12	17	22																												
中学校					教育委員会	中学校																										
地域交流棟					教育委員会	ボランティア団体																										
					教育委員会	町長部局																										
特徴	・地域に開かれた学校を実現するため、学校敷地の周囲に囲障は設けておらず、誰でも気軽に訪れることのできる開かれたつくりとなっている。 ・ボランティア団体は、統合中学校の整備を機に、住民が中心となり発足。PTA や町内会でもないボランティア組織として、子供たちへのより良い教育環境の提供を目指して 自主的に活動を行っている。 ・ボランティア団体が常駐する「町民ホームベース」 はガラス張りとなっており、中学生と地域住民がお互いに存在を感じ合うことができる。《学校教育活動への効果》 ・検討段階で、地域住民を巻き込んだ検討のプロセスが後に地域の学校に対するサポートにもつながっている。 ・避難訓練では、中学生が高齢者の避難を介助や保育所で中学生の保育実習も実施など、学校教育にも公共施設を有効に活用 ・施設間の連携による防災力の向上																															
防犯対策	・地域交流棟の入口を設けており、常駐するボランティア団体が入館者をチェックしている。 ・17 時以降には、校舎棟と地域交流棟の間のシャッターを下ろすことに																															

より、地域交流棟から校舎棟へ利用者が入らないようにしている。

写真・配置図等

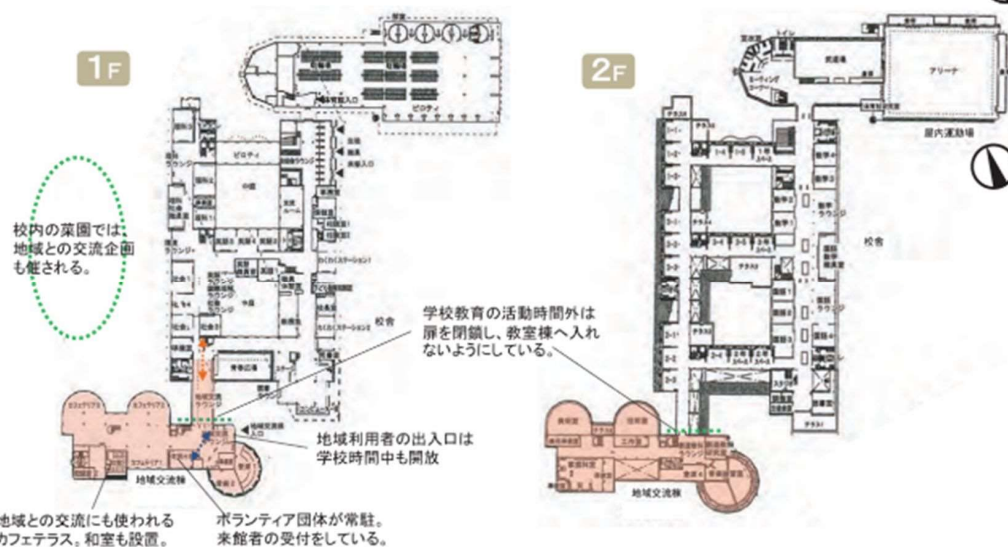
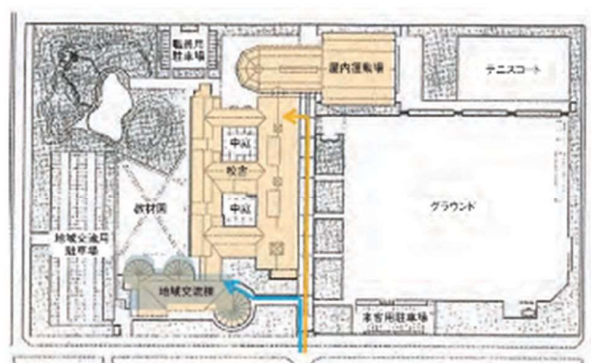


<立面図>



凡 例
→ 中学校
→ 地域
社会教育施設

<配置図>



出典：資料 2 報告書（案）（11/15）

（事業費）<https://www.town.seiro.niigata.jp/material/files/group/6/20240725gijiroku.pdf>

●事例 05：志木市立志木小学校	
所在地	埼玉県志木市
施設構成（床面積）	小学校（10,489 ㎡） 公民館（1,704 ㎡） 図書館（1,034 ㎡）
構造・階数	SRC 造地下 2 階地上 4 階
整備時期	平成 15 年
学校規模	30 学級 836 名（特別支援学級 4 学級）（令和 5 年 4 月時点）
事業概要	・志木小学校と、近接する公民館・図書館の建物の老朽化・耐震化問題の解決策として、学社融合施設として整備。
事業手法	—
事業費	総工事費：約 32.6 億円（設計、いろは遊学館新築工事、既存南校舎大規模改造工事、外構工事） 歳入額/国庫支出金：5.2 億円、県費補助金：約 0.5 億円、地方債：約 17.9 億円、一般財源：約 9.1 億円
管理・運営の体制	直営・小学校、公民館、図書館（所管・管理運営：教育委員会） ・学童保育クラブ（所管・管理運営：市長部局）
特徴	・小学校と公民館や図書館は、広いピロティや渡り廊下でつながっており、行き来は自由。 ・研修室やホール、体育館など子どもたちと市民が共有できる。 《学校教育活動への効果》 ・学校と社会教育施設の学社融合施設として、設備も人も活用した独自のカリキュラムにより、学習内容や活動の幅を広げる ・小学校は、資料の豊富な公共図書館も活用可能（本の貸出しだけでなく、1 日約 3 クラスが授業でも利用。） ・音楽室や PC ルーム、ホール等は共有で使用 ・小学校のクラブ活動や課外活動を、公民館の利用団体が支援。 ➡ ・公共施設の有効活用により、児童と地域の人々の学習機会も向上 ・日常的に公共施設を利用したり、地域の人々と交流したりすることで、自然と社会性が身に付く ・学校と図書館・公民館で棟や入口は違うものの、明確な区分はほとんどなく、図書館などは児童と地域が同じ時間に利用している。 ・月曜日は公民館・図書館が共に休館日のため、小学校が事実上貸切のように使用可能。
防犯対策	・児童と公民館・図書館利用者との動線はあえて明確に分けず、大人の目で児童を守るという方針で運営 ・防犯監視カメラの設置や危機管理マニュアルの作成、常駐警備員の配置、3 施設合同の避難訓練防犯訓練の実施（年に 3 回）。 ・教職員及び図書館、公民館の職員は緊急時に備え PHS を常備。

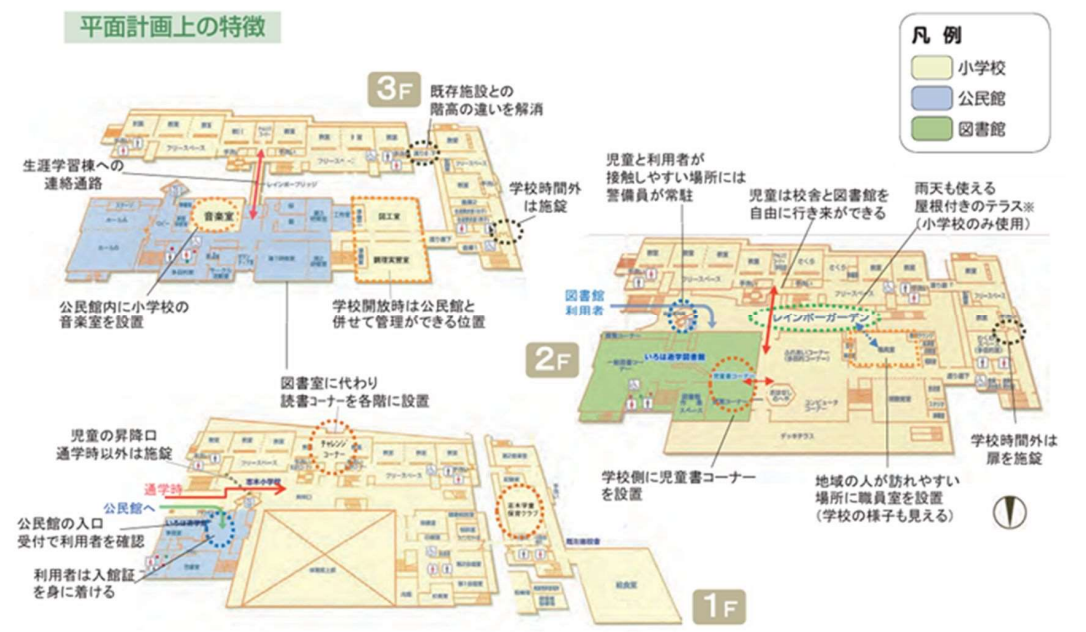
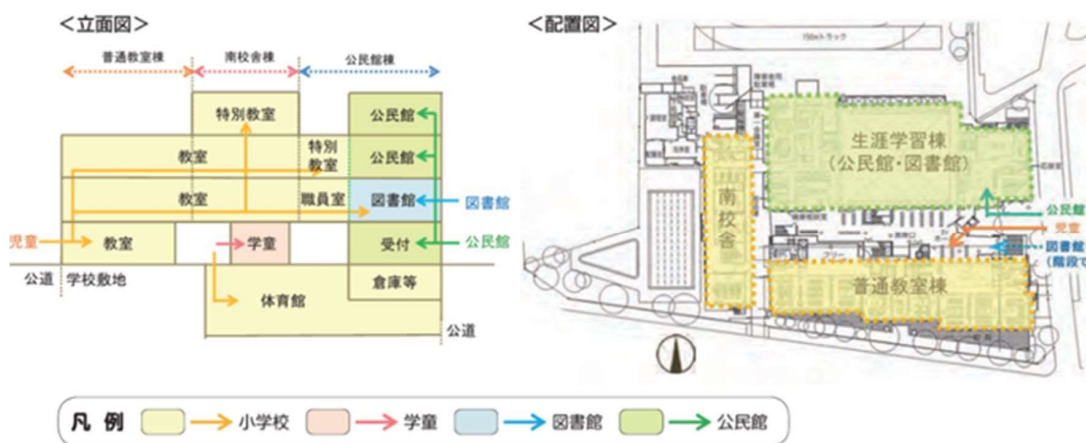
写真・配置図等



外観



ガラス張りで太陽光が入る明るい施設



(事業費)<https://www.city.hashimoto.lg.jp/material/files/group/27/R1bunkyoujisatsu.pdf>

地域コミュニティに支えられた 学社融合施設

●事例 06：下関市豊北中学校

所在地	下関市豊北町大字滝部 1244-36
施設構成（床面積）	中学校、図書館 敷地面積：39,851 m ² 建築面積：8,545.55 m ² 延床面積：10,090.04 m ²
構造・階数	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造地上 2 階
事業概要	中学校の統廃合推進の提言により町内の 4 つの中学校を統合して新しく建設された。充実した図書スペースを設け、また音楽・美術・技術・家庭科の特別教室がまとめて配置され、生涯学習の拠点となる中学校として整備されている。
整備時期	平成 17 年完成、平成 18 年度開校
学校規模	10 クラス、生徒数 245 人（平成 22 年 3 月末現在）
事業手法	建築主：下関市
事業費	約 28 億円（用地費含む）
管理・運営の体制	・図書室は市が管理、図書館担当の市職員が常駐。
特徴	《学校教育活動への効果》 ・地域の専門性をもった人材を外部講師として招き、専門性の高い指導の場を設けている。 ・全ての機能を包括した普通教室から、より高度で専門的な授業の展開が可能な教科教室を整備。 ・教科ゾーン音に、個別・グループ学習の場である教科多目的スペース、少人数学習の場としてのゼミ室、教師の拠点である研究室をまとめて配置し、教科センター方式の運営を可能とした。 《地域への効果》 ・中学校の中心に地域利用可能な図書館（公共図書館）の併設や、体育館・音楽室・美術室・技術室・家庭科室を地域開放施設としてまとめて配置することなどにより、地域の交流活動の拠点として活用。 ・学校が地域の交流と学習・運動活動の拠点に。 ・地域環境と共生するエコスクールとして、地熱ヒートポンプシステム・氷蓄熱ヒートポンプパッケージ・全熱交換器・高効率照明器具などを設置し、省エネルギーで環境にもやさしい設備になっている。
防犯対策	・地域の交流活動の拠点として活用することにより、地域との交流が生まれ、地域全体で生徒を見守り育てていくという意識を高めている。

写真・配置図等



全景



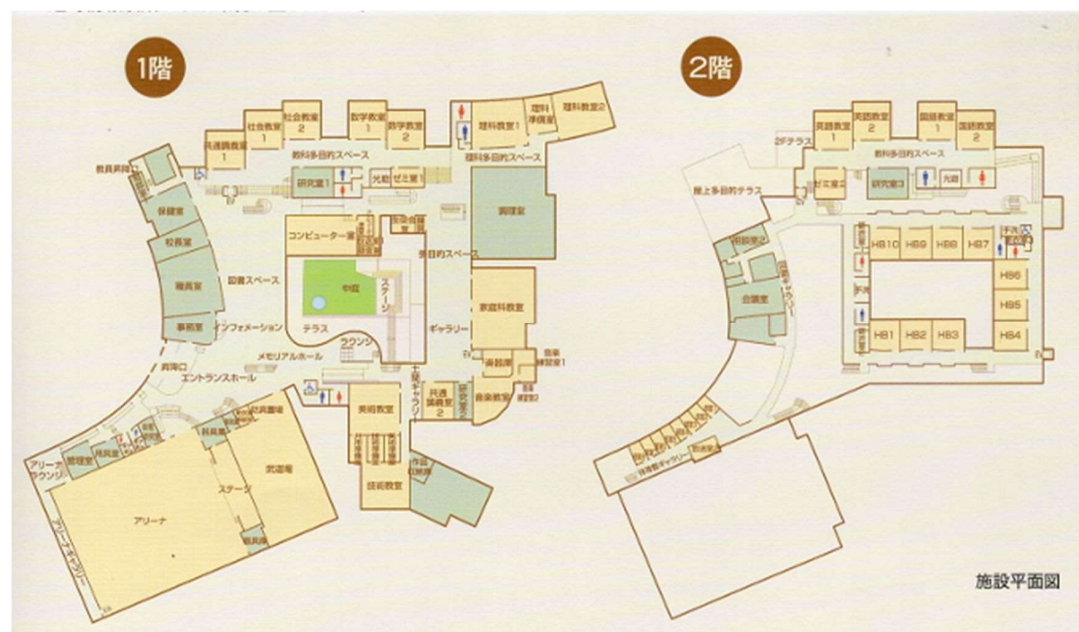
図書館



中庭



多目的スペース



出典：[3 下関市立豊北中学校](#)

(下関市立豊北中学校 学校紹介リーフレット)[その3.PDF](#)

●事例 07：南砺市立利賀小学校 南砺市立利賀中学校『南砺市立利賀学舎』	
所在地	富山県南砺市利賀村 184 番地
施設構成（床面積）	小・中学校（8,212 m ² ） 公民館（1,522 m ² ）
構造	RC 造地上 4 階地下 1 階
事業概要	・旧利賀村において、少子高齢化、過疎化が進み、平成元年に 2 小学校の統合と中学校の 老朽化に伴う建替の検討がされた。 ・その後、社会教育施設を併設する村民のための複合教育施設構想実現のため、文部省 「文教施設インテリジェント化に関するパイロットモデル研究事業」により、基本計画を策定し実現した。
整備時期	平成 10 年
学校規模	小学校 3 学級 16 名 中学校 3 学級 18 名
事業手法	—
事業費	—
管理・運営の体制	小学校・中学校・公民会：直営
特徴	・高低差を生かし、村民が主として利用する公民館は 1 階、小学校は 2 階、中学校は 3 階から各施設にアプローチする計画とし、内部は相互利用を想定した計画としている。 ・公民館では公民館内のホールや和室、図書室の利用受付だけでなく、19 時以降の学校開放による体育館の利用や放課後子供教室の受付も行っている。 《学校教育活動への効果》 ・ボランティア団体の企画により、野菜作り、梅干作りなどの様々な体験活動を行っている。 ・ボランティア団体が、国語や家庭科の授業を支援している。 ・公民館図書室は、児童生徒が授業で活用するだけでなく、放課後子供教室としても活用している。 ・3 施設が重複する機能をまとめ、相互利用を想定した計画とすることで、単独の学校、公民館にはない賑わい、活気を創出。 《市・地域への効果》 ・小中学校共用の家庭科室や和室を、公民館と同じフロアとすることで地域の利用者の使用を容易にしている。 ・アースホールは児童生徒の学習発表会や地域内の文化祭、民謡など伝統文化継承活動などに利用されている。 ・ボランティア団体が常駐する「町民ホームベース」 はガラス張りとなっており、中学生と地域住民がお互いに存在を感じ合うことができる。
防犯対策	・小学校、中学校、公民館が一体化され、地域住民が集まりやすく、学校が地域に見守られている環境となっている。 ・地域の方々も顔見知りであり、今まで不審者侵入などはないが、学校長は、児童生徒の避難方法について特に留意している。

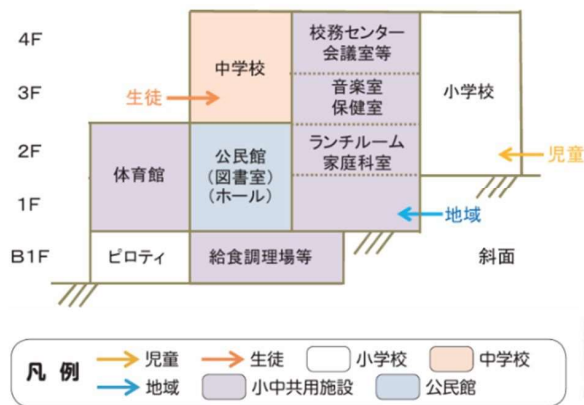
・学校と公民館の使用時間に応じ、格子扉等の開閉によりゾーン分けをしている。

写真・配置図等

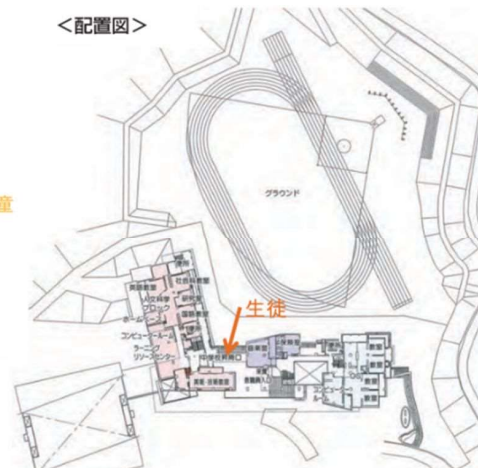


外観

<立面図>



<配置図>



参照：<https://www.city.nanto.toyama.jp/material/files/group/8/0000069252.pdf>
 南砺市立利賀学舎 <https://toga-e.nanto.ed.jp/>

●事例 08：近江八幡市立桐原小学校 コミュニティセンター 学童保育	
所在地	滋賀県近江八幡市森尻町
施設構成（床面積）	10,587 ㎡ 小学校（公立）、コミュニティセンター、こどもの家（学童保育）
構造	RC 造、一部 S 造・地上 2 階建
事業概要	・学校の耐震化対策と合わせて、地域のコミュニティセンター・小学校・学童が一体となった「コミュニティエリア」を整備した複合施設で、防災拠点としての役割も果たす小学校に改築。
整備時期	平成 24 年～平成 28 年 3 月
学校規模	24 学級 577 名(特別支援学級 6 学級 38 名)
事業手法	—
事業費	32.3 億円（整備費）
管理・運営の体制	・コミュニティセンター内に『桐原学区協働まちづくり協議会』が窓口を置き、同施設及び体育施設の管理を行っている。
特徴	《地域との連携》 ・PTA 等が集まるための会議室を設け、様々な人が学校に参画しやすい環境をつくっている。 ・学校施設を利用し、地域の人による子ども食堂を年 4 回実施したり、課外活動には地域の人がボランティアで参加するなど、地域と学校が連携しやすい体制をつくっている。 《防災対策》 ・体育館の床はラバーとなっており、すぐに行事や避難所として使え、災害時には断熱の効果も期待できる。 ・学校が避難所となった場合は、体育館、多目的ホール、学校 1 階の施設へと段階的利用し、教室は教育の場として確保。 ・体育館は備蓄倉庫を備えており、冬用のヒーターやロールシート、毛布、水などが備蓄されている。 ・コミュニティセンターが小学校と連携し、学区の防災の司令塔としての役割も持たせている。
防犯対策	・1 階エリアには全ての管理部分（職員室や校長室、休憩室）を集約したことで、職員から生徒の様子を見守りやすい配置とした。 ・小学校の入口は門扉等でセキュリティ上、区別された中に設置

写真・配置図等



校庭から見た小学校及びコミュニティセンターの外観



体育館



廊下側の壁を開放できる構造



メディアセンター（図書館）

参照：<https://kiri-hara-cc.org/>

https://www.mext.go.jp/co-sha/ideas/case02_kiri-hara.html

●事例 09：ながふじ学府小中一体校

所在地	静岡県磐田市加茂 243
施設構成(床面積)	延床面積 17,372.86 m ² 小学校、中学校、 地域連携室、ランチルーム、図書館、屋内運動場、学童保育
構造・階数	RC 造・地上 4 階建
整備時期	R3 年 4 月（開設）
学校規模	小学校：538 名、中学校：274 名（2022 年 5 月 1 日現在）
事業概要	磐田市では、人と人とのつながりを大切にした学府一体校をはじめとする「新時代の新たな学校づくり」に取り組んでいる。 市内初の学府一体校となる「ながふじ学府」では、地域住民、保護者、教職員等による「ながふじ学府一体校建設検討会」を立ち上げ、各教室や図書館、グラウンド等の配置やその機能、内容について検討が行われ、整備が行われた。
事業手法	—
事業費	—
管理・運営の体制	管理手法：直営
特徴	・学校施設のほかに「ながふじ図書館」や「地域連携室」、「ランチルーム」といった地域開放エリアを設けている。 ・また、広い昇降口や大階段につながる「ながふじホール」などの空間は、自由な発想でさまざまな活用ができ、学年を超えた子どもたちのコミュニケーションが自然と生まれるように考えられている。 ・職員室も小中一体で、地域、子どもたちの交流だけでなく、教職員同士の日常的な交流も創出する。 ・1 階にある学校図書館（ながふじ図書館）は、児童・生徒だけでなく、地域住民が自由に利用できる地域に開かれた図書館。市立図書館資料は一般の方も貸し出し可能。 ・ランチルームでは、給食だけでなく、豊田東小児童との交流、集会、地域住民の活用など多目的に活用できる。 ・地域連携室は地域住民が自由に利用可能。
防犯対策	

写真・配置図等



外観



全景



図書館



ランチルーム

参照：

https://www.city.iwata.shizuoka.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/022/ikkann_zu.pdf

[【磐田市】 成果報告書 概要（最終版） 0903_elementaryandjuniorhighschool_r6.pdf](#)

事例 10：市川市立第七中学校

所在地	千葉県市川市末広 1 丁目 1 番 9																																																		
施設構成 (床面積)	中学校 (7,486 ㎡うち給食室 474 ㎡) 文化ホール (3,077 ㎡) 保育所 (611 ㎡) ケアハウス (2,468 ㎡) 老人デイサービスセンター (393 ㎡)																																																		
構造・階数	RC 造地上 5 階地下 1 階																																																		
整備時期	平成 16 年 9 月供用開始																																																		
学校規模	21 学級 820 名 (特別支援学級／4 学級 23 名)																																																		
施設整備の背景	・中学校校舎 (一部) の老朽化対策として、校舎を改築 (平成 15 年) ・校舎改築の計画に当たり、地域の要望があった公共施設及び需要のある保育園・老人福祉施設との複合化を実施 ・工事の契約に際し、PFI 手法を導入することで、財政負担の軽減・平準化を図った																																																		
事業手法	PFI 方式 (BOT)、サービス購入型 事業期間 17 年 (うち維持管理運営期間 15 年)																																																		
事業費	約 47.4 億円 (学校校舎・給食室・公会堂整備等、保育所整備 PFI 事業) 約 10 億円 (ケアハウス整備等 PFI 事業) 国庫補助金 (中学校校舎、給食室、保育所、ケアハウス)																																																		
管理・運営の体制	・中学校、老人福祉施設、保育所の施設の管理は、SPC が実施。 ・文化ホールの施設の管理は、指定管理者が実施。 ・運営の管理は、それぞれの施設長が実施。 <table><tr><th rowspan="2">施設</th><th colspan="4">利用時間 (平日)</th><th rowspan="2">所 管</th><th rowspan="2">管理・運営</th></tr><tr><th>8</th><th>12</th><th>17</th><th>22</th></tr><tr><td>中学校</td><td colspan="4"></td><td>教育委員会</td><td>SPC</td></tr><tr><td>文化ホール</td><td colspan="4"></td><td>市長部局</td><td>指定管理者</td></tr><tr><td>保育所</td><td colspan="4"></td><td>市長部局</td><td>SPC</td></tr><tr><td>ケアハウス</td><td colspan="4"></td><td>市長部局</td><td>SPC</td></tr><tr><td>老人デイサービスセンター</td><td colspan="4"></td><td>市長部局</td><td>SPC</td></tr></table>					施設	利用時間 (平日)				所 管	管理・運営	8	12	17	22	中学校					教育委員会	SPC	文化ホール					市長部局	指定管理者	保育所					市長部局	SPC	ケアハウス					市長部局	SPC	老人デイサービスセンター					市長部局	SPC
施設	利用時間 (平日)				所 管		管理・運営																																												
	8	12	17	22																																															
中学校					教育委員会	SPC																																													
文化ホール					市長部局	指定管理者																																													
保育所					市長部局	SPC																																													
ケアハウス					市長部局	SPC																																													
老人デイサービスセンター					市長部局	SPC																																													
特徴	・園児と高齢者は、週一回合同で体操をしたり、屋上庭園では園児と高齢者で芋掘り、小体育館では中学生と高齢者の交流イベントを実施し、お互いの交流の場としている。 ・ケアハウス入居者は、学校図書室を利用することも可能 ・文化祭、吹奏楽部発表会等で文化ホールを利用 ・避難訓練では、中学生が高齢者の避難を介助 ・保育所では、中学生の保育実習も実施 ・施設間の連携による防災力の向上																																																		
防犯対策	・各施設を明確に区分 (玄関を施設ごとに設置) ・施設間の連絡扉は防災訓練等における使用 ➡ ・動線の分離により、防犯性を高める ・緊急時には柔軟に連絡扉を開閉																																																		

写真・配置図等

- ・各施設の動線を明確に区分。学校教育の活動時間外の学校開放に当たっては、専用玄関を設置し、動線を明確に区分。
- ・イベント、緊急時における通用扉利用による利便性の向上



市民ホール



ふれあいホール内

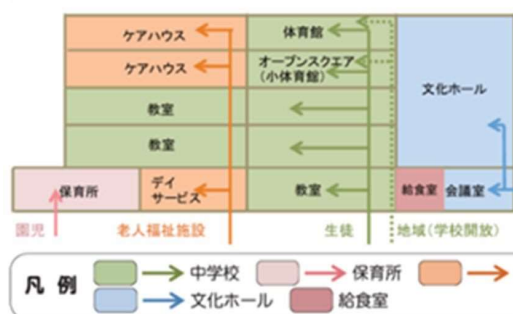


中学校



ふれあい施設

<立面図>



<配置図>

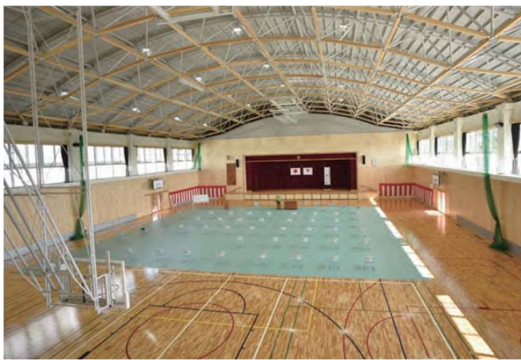


参照：(事業費)

<https://gikai.city.sennan.osaka.jp/wp-content/uploads/r6gakkousisauhoukooku.pdf>
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/04073001/023/003.htm

事例 11：京都市立京都御池中学校																									
所在地	京都府京都市																								
施設構成 (床面積)	中学校（14,197 ㎡） 保育所（1,644 ㎡） 高齢者福祉施設（755 ㎡） 行政オフィス(地域包括支援センター)（1,060 ㎡） 賑わい施設（348 ㎡）																								
構造・階数	RC 造地上 7 階地下 1 階																								
整備時期	平成 18 年 3 月供用開始																								
学校規模	19 学級 699 名(御所南小・高倉小 6 年生/9 学級 312 名、特別支援学級/1 学級 7 名)																								
事業概要	・ 地元要望による学校統合(3 校)を契機に校舎を整備。京都の中心地にあり、市内でも有数の立地であることから、敷地の有効活用を図った。 ・ 学校の教育活動に貢献し、地域にも必要性の高い施設である保育所や高齢者福祉施設と共に、通りを活性化させる店舗（賑わい施設）も併設。																								
事業手法	PFI（BTO 方式）、サービス購入型 平成 16 年 5 月～平成 33 年 3 月、（設計・建設：2 年/維持管理・運営：15 年）																								
事業費	PFI 方式における市の財政支出：63.2 億円 《活用した制度》・小中学校の統合校舎等の新增築事業（文部科学省） ・学校体育諸施設整備事業（文部科学省）																								
管理・運営 の体制	・ P F I 事業者が施設全体の管理を行っている（保守管理、清掃等） ・ 中学校の運営業務は市が、老人デイサービスセンター、在宅介護支援センターの運営業務は市が選定した社会福祉法人が行う。 ・ 乳幼児保育園は民営保育園が市の土地、建物の貸付を受け、運営する。 <table><tr><th>施設</th><th>利用時間(平日)</th><th>所管</th><th>管理</th></tr><tr><td>中学校</td><td>8:00～17:00</td><td>教育委員会</td><td>PFI事業者</td></tr><tr><td>保育所</td><td>8:00～17:00</td><td>市長部局</td><td>PFI事業者</td></tr><tr><td>高齢者施設</td><td>8:00～17:00</td><td>市長部局</td><td>PFI事業者</td></tr><tr><td>民間店舗</td><td>8:00～22:00</td><td>PFI事業者</td><td>PFI事業者</td></tr></table>					施設	利用時間(平日)	所管	管理	中学校	8:00～17:00	教育委員会	PFI事業者	保育所	8:00～17:00	市長部局	PFI事業者	高齢者施設	8:00～17:00	市長部局	PFI事業者	民間店舗	8:00～22:00	PFI事業者	PFI事業者
施設	利用時間(平日)	所管	管理																						
中学校	8:00～17:00	教育委員会	PFI事業者																						
保育所	8:00～17:00	市長部局	PFI事業者																						
高齢者施設	8:00～17:00	市長部局	PFI事業者																						
民間店舗	8:00～22:00	PFI事業者	PFI事業者																						
特徴	《地域の提案に基づく整備》 ・ 地域が『新中学校設立推進委員会』を設立し、新しい中学校の在り方や新しい校舎施設について議論。 ・ 中学校、乳幼児保育所、老人デイサービスセンター、地域包括支援センターなど、地域の教育と福祉の拠点施設とした。 ・ 街のシンボルロードである御池通りの活性化へ寄与する店舗の設置。 《市・地域への効果》 ・ 民間事業者の提案に基づく商業施設を配置することで、京都市のシンボル通りである御池通りの活性化に寄与。 ・ 従来の整備手法と比べ施設整備費が 30%削減された。 ・ PFI 事業者が中心となり定期的に施設全体の避難訓練を実施。 ・ 中学校の生徒が保育所・賑わい施設・高齢者福祉施設で職業訓練を実施。高齢者や園児とイベントに参加するなど、利用者間の交流機会を設けている。																								

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000042/42608/0514.hyouka.pdf>

事例 12：秦野市立西中学校	
所在地	神奈川県秦野市柳町二丁目 5 番 1 号
施設構成(床面積)	体育館 (2,340 ㎡) 公民館 (990 ㎡) 防災備蓄倉 (140 ㎡)
構造・階数	RC 造一部 S 造、地上 2 階建
整備時期	
学校規模	599 名
事業概要	・同施設は西中学校体育館（1969 年建築）と武道場（1981 年建築）、西公民館（1973 年建築）の老朽化対策に加えて、将来的に小中学校を一体化させた義務教育学校の設置を踏まえ、公民館と地域防災機能を複合化した多機能型体育館として建設された。
事業手法	
事業費	約 12 億円（建設費）
管理・運営の体制	指定管理者による (事業者の募集及び選定の方法は、公募プロポーザル方式)
特徴	《施設計画上の工夫》 ・体育館内には学校機能としてアリーナやクラブ活動用の部室、武道場などが整備されている。公民館機能としては多目的ホールや図書室のほか、視聴覚室や和室等に変更可能な集会室を設置。また災害に備えた備蓄倉庫が併設されているほか、同施設では自家発電を採用しており、72 時間連続稼働が可能となっている。
防犯対策	
写真・配置図等	
 	

参照：秦野市 HP

<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/kosodate/mokuteki/8/5/6/4477.html>

新たな学校施設における各種機能・取組事例

防災機能

No.	所在地	学校名	特徴
1	群馬県	前橋市立 桃井小学校	学校の早期再開に留意した学校施設の詳細な利用計画を策定 体育館への物資を円滑に搬入できるよう動線を計画
2	愛知県	大府市立 大東小学校	給食施設を非常用炊き出しに利用 要支援者や高齢者等の避難行動をサポートするバリアフリー化
3	新潟県	長岡市立 東中学校	中越地震の教訓を踏まえ、避難所としての防災機能を重視した学校に改築 実物大の教材として学校施設の防災機能を防災教育に活用

地域開放

No.	所在地	学校名	特徴
4	東京都	町田第一中学校	学校外との交流にも活用できるホールや災害時の避難施設 機能を高める設備など、これからの学校に求められる機能
5	愛知県	にじの丘学園	高低差のある地形を活かし、中庭やハイサイドライトを立体的に配置することで光や風を大空間に優しく取り込む計画
6	長野市	阿智村立阿知小学校	体育館棟を校舎とは独立して整備 保護者の送迎等も含め多くの利用者が車で来校するため、約 200 台分の駐車スペースを確保

個別最適な学び

No.	所在地	学校名	特徴
7	茨城県	つくば市立春日学園	市内初の施設一体型小中一貫教育校 40 年前から協働学習を重視し、PC 教室を独自の円形机で円滑にコミュニケーションが取れる
8	広島県	府中市立府中学園	図書室は総合メディアセンターとしてコンピュータールームと一体化し、校舎の中心に配置されている
9	茨城県	東海村立白方小学校	各学年の教室がゆるやかに独立し、ユニットを組む設計。中学年教室では、教室内に個別に座れる席を用意

事例 1：前橋市立桃井小学校

所在地	群馬県前橋市大手町二丁目 16-4
建物用途	小学校（公立）・コミュニティセンター・消防分団・放課後児童クラブ
敷地面積	15,531 m ²
延床面積	9,773 m ²
構造・階数	校舎：RC 造一部 S 造・地上 3 階建 体育館：RC 造・地上 1 階建
新築・改修	新築
整備時期	2018 年 2 月
学校規模	398 名（2021 年 4 月 1 日現在）

概要

桃井小学校は、前橋市役所に隣接する市内の中心部に位置しており、平成 28 年に近隣の小学校と統合することをきっかけに、地域のコミュニティセンターや消防団の詰所を含めた複合施設として改築を行った。改築にあわせて、防災倉庫やマンホールトイレなどの防災機能を新たに整備した。

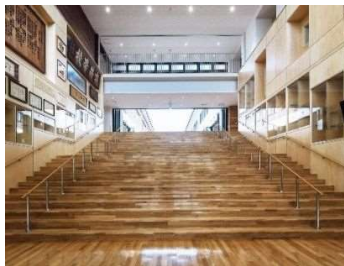


施設全景

写真



玄関ホール
完全バリアフリー構造。



玄関ホール
メイン大階段。



トイレ
各階身障者用を備える。



視認性の高い教室の仕切り

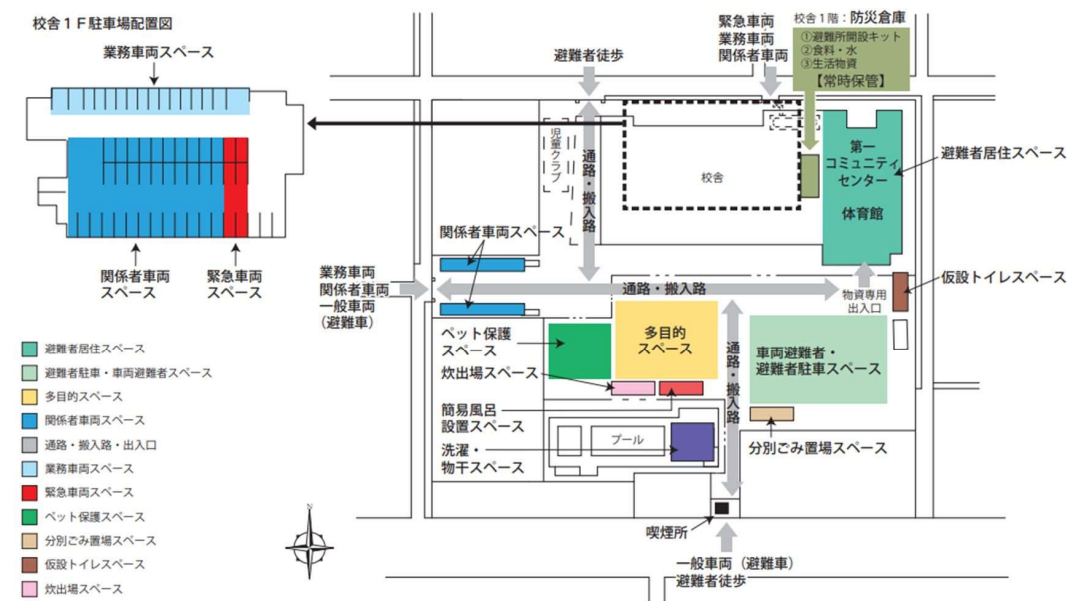


体育館



敷地内学童クラブ

避難所としての機能



【敷地】

敷地には、車両の通路・搬入路や駐車スペースに配慮しつつ、炊出場スペース、簡易風呂設置スペース、洗濯・物干スペース、ペット保護スペース、分別ごみ置場スペース等、避難所に必要なとされる機能を配置している。

特に、避難所の中心となる体育館への車両動線は、円滑に物資運搬を行うため、敷地西側から一直線の動線が確保されるように配慮されており、災害備蓄品置場となる体育館ステージの裏にトラックを横付けし、物資を直接搬入できるようになっている。



【体育館】

体育館はコミュニティセンターとともに、初動時から避難生活を送るための居住スペースとして使うため、防災倉庫や災害時特設公衆電話のモジュージャックを設ける等、避難所として必要となる機能を集約している。また、体育館にはクッション性のある床材を使用しており、避難生活時の身体の負担を軽減している。

その他の取組

学校教育の早期再開を見据えた学校施設の利用計画等について

○桃井小学校は併設するコミュニティセンターと一体の施設となっており、日常的な利用においても、①校舎、②コミュニティセンター、③体育館（学校開放に利用可能）はそれぞれ管理を区分できるようになっている。

○災害時には、開設期間が1～2日以内と見込まれる場合（短期避難所）、避難者の受け入れは原則としてコミュニティセンターと体育館を中心に行うこととしており、避難所の開設期間が長期化すると見込まれる場合（長期避難所）や特別な配慮が必要な避難者が避難した場合に、収容人数や個別のニーズ（要配慮者等）に応じて、市や学校と協議した上で、順次、校舎等を開放していくこととしている。

地域防災力の向上・コミュニティ拠点に向けた取組

○学校では1学期に1回以上の防災訓練を実施しており、初動対応、鍵の場所や防災倉庫の位置、スイッチ・水道蛇口の位置等を確認している。教員に市の対応を知ってもらう場にもなっている。

○関係自治会（自主防災会）の自主防災訓練において、避難先となる桃井小学校の避難所配置図を確認するなど、「避難所となる学校」をキーワードにした防災意識の向上と自主防災活動の活性化に努めている。

前橋市の取組み

○避難所配置図や避難所資機材を活用した体験型防災教育



避難所資機材の組立体験(小学校)

○学校を会場に実施する自主防災訓練（避難所開設訓練）



避難所開設訓練の様子

[出典]

避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集（令和2年3月）文部科学省

前橋市

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/somu/bousaikikikanrika/gyomu/2/hinanjo/34082.html>

前橋市立桃井小学校 <https://sites.google.com/school.maebashi.ed.jp/momonoi-es>

株式会社社井設計 <http://www.is-ishii.jp/project/2018/02/post-274.html>

事例 2：愛知県大府市、大府市立大東小学校

所在地	愛知県大府市大東町二丁目 61 番地
建物用途	小学校（公立）
延床面積	校舎：8,507 m ² 体育館：1,705 m ²
構造・階数	校舎：RC 造・地上 3 階建 体育館：RC 造・地上 2 階建
新築・改修	新築
整備時期	2012 年
学校規模	483 名

概要

大東小学校の体育館の床レベルは海拔 3.3m、グラウンドレベルは海拔 2.2mである。こうしたことから、基本設計の段階で、建物床レベルを東海豪雨の想定浸水深より上げている。

平成 15 年度愛知県調査に基づく、東海・東南海地震液状化危険度分布から可能性が高い地域でもあり、そのために地質調査の段階では液状化の検討も組み入れ、判定の結果を踏まえて地盤改良と盛土を行っている。学校周辺は湛水防除地域にも指定されていることから、周辺地域への雨水流出を抑制するため、グラウンドと校舎地下に合計約 7,500 m³の雨水貯留機能を持たせている。

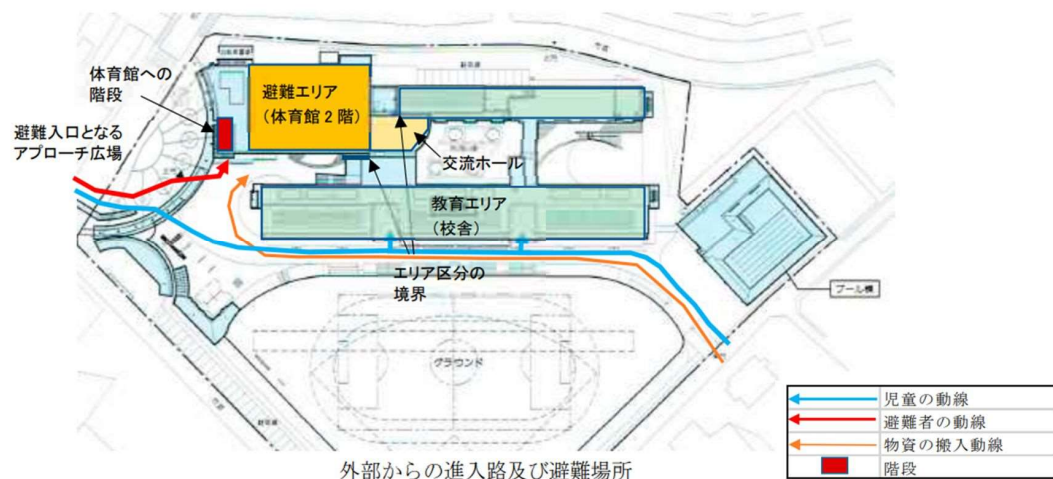
避難所としての機能

避難エリアと教育エリアを分離した施設利用計画

○避難所として使用するスペースは体育館と交流ホール及び家庭科室としている。大東小学校は避難所となるスペースと校舎エリアが電動シャッターによって区分できる。

避難所開設と運営

○地震時はグラウンドに集まり、体育館の安全確認後、進入することになる。大東小学校の 1 階給食室玄関及び 2 階職員室玄関の 2 か所のみ電気錠で、火災時に自動火災報知機と連動し自動で開錠する機能がついている。避難生活時の住民の情報交換の場として交流ホールを使用する。



避難所としての機能

トイレ

- 災害時の水洗トイレは、体育館の1階に確保している。
- グラウンドのトイレとして屋外トイレを確保している。
- マンホールトイレはプライバシーの確保を主眼におき、プール管理棟の屋内に3か所設置している。



屋内設置のマンホールトイレ

飲料水確保

- 受水槽は地震時に飲料用として使用する。
- 校舎や体育館は水道直圧方式を導入しており、消火用設備や保健室のシャワー及びトイレ用浄水は受水槽方式を採用している。

エネルギー確保

- 災害時の電力確保のために発電機2台と燃料のガソリン20ℓを防災倉庫に保管。
屋根に設置している太陽光発電機の80kWのうち、10kWが蓄電池と接続され、災害の停電時の初期段階の電源を確保できる。さらにキュービクル内には電源車など外部電源からの電気供給を可能とする切替盤を設置している。

備蓄

- 防災備蓄倉庫は、受水槽、キュービクルなどを整備したサービススペースの近くの体育館に併設している。市の中でも基幹的な倉庫として位置づけられ、非常時の食料と飲料水、毛布等を備蓄している。倉庫面積は32㎡である。

避難所のためのバリアフリー対策

- 外部から大東小学校へのアクセス通路は、地域住民にわかりやすいように、アプローチ広場から正門へ段差がないよう考慮した。また、体育館入口は自動ドアで玄関内の踏み込みは段差を解消している。また、体育館トイレと屋外トイレにはそれぞれ1か所多機能トイレを設置している。さらに、体育館の更衣室には温水シャワーも完備し、避難者へのプライバシーの確保や衛生面などを配慮した施設づくりとなっている。

雨水流出抑制

- 大府市では市の総合排水計画により、一時的に雨水を貯める雨水流出抑制を実施しており、これを受けて、大東小学校でも地域の防災機能への貢献及び湛水地域として機能を確保することから、法的に定められた以上の雨水貯留を確保できる設計にしている。雨水貯留施設は、グラウンドや校舎地下に深さ1.2m程度コンクリート区画を複数個設置することで、河川への負荷を軽減させる。

校舎地下の貯水タンク



[出典]

避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集（令和2年3月）文部科学省
大府市立大東小学校 https://www.obu-c.ed.jp/daitou-e/?page_id=15
愛知工務店 <https://www.aichikoumuten.com/works/post488/>

事例 3：長岡市立東中学校

所在地	新潟県長岡市水道町 5 丁目 1 番 1 号
建物用途	中学校（公立）
敷地面積	34,030 m ²
延床面積	10,587 m ²
構造・階数	RC 造一部 S 造・地上 3 階建
新築・改修	新築
開校年	2009 年
学校規模	12 学級：294 名（2022 年 5 月 1 日現在）

概要

長岡市の東中学校では施設の老朽化に伴い、平成 15 年度から学校教職員、PTA、後援会及び地元住民とともに施設の全面改築に向けた検討を進めていた。その最中、平成 16 年 10 月に新潟県中越地震が発生したことにより避難所としての機能を充実させることが重点課題となり、市職員に上記関係者も交えて検討を重ねたものである。

配置図

①屋内外で避難住民が使用するスペースに配慮した施設配置

避難住民が使用する屋内のスペースを、1 階レベルに集約し、外部からの支援物資の搬入や足腰の弱い避難者の受け入れを容易にした。

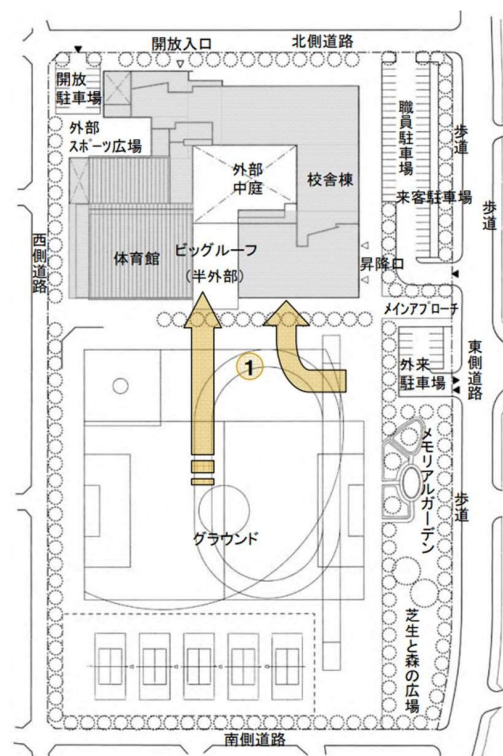


屋根付の屋外広場（ビッグルーフ）

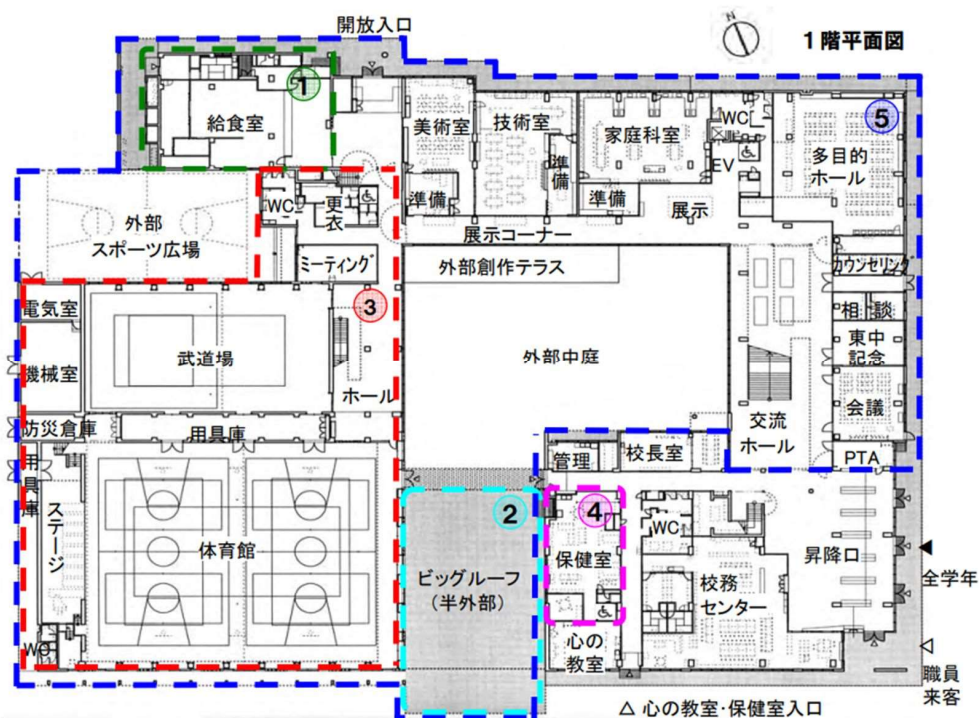
通常時は天候を気にすることなく運動できるスペースとなる。



一時避難所となる体育館



避難所としての機能



- ①炊き出し活動を行える場所を避難住民が使用するスペースに隣接
給食室を体育館や外部スポーツ広場に隣接して配置し、避難所となった場合に、給水車の乗り入れや炊き出し釜等の設置を可能にした。
- ②積雪時及び降雨時の避難活動を支援する屋根付屋外広場
積雪期には、屋外における避難活動は困難を極めるため、屋根付の屋外広場（ビッグルーム）を設け、冬期の避難活動に必要なスペースを確保した。
- ③避難者の多様な要求に対応した施設・設備の集積
 - ・子どもや高齢者の避難を考慮して、武道場に簡易暖房を設けた。
 - ・水確保の対策として、受水槽の水を飲料水として取り出すことのできる水栓を設置するほか、トイレ洗浄水に雨水を貯めた中水を利用する。
 - ・多機能トイレ、屋外から利用できるトイレ、シャワースペース付の更衣室を設けた。
 - ・主に避難所として使用する体育館にテレビ受信、電話配線、LANの配線等を整備。
- ④円滑な救護活動が展開できる保健施設配置
保健室をグラウンドや体育館に隣接して配置し、ケガ人等の応急救護活動を速やかに展開するとともに、救急車両等による搬出を容易にした。
- ⑤開放ゾーンとの重ね合わせによる地域防災力の向上
日常的に地域開放を行うゾーンと避難住民が利用するゾーンを重ね合わせ、地域住民が平常時から施設に馴染み、避難所として活用した場合のイメージを共有できるようにした。

[出典]

報告書「学校施設の防災機能の向上のために」国立教育政策研究所
長岡市 <https://www.city.nagaoka.niigata.jp/index.html>
長建設計事務所 <https://chokensekkei.co.jp/projects/395/>

事例4：東京都町田市、町田第一中学校

所在地	東京都町田市中町1丁目27番5号
建物用途	中学校（公立）、地域図書室、ホール
地域開放	図書室、武道場、ホール、多目的室、音楽室、調理室
校地面積	15,113 m ²
延床面積	13,603 m ² （うち新築：11,404 m ² ）
構造・階数	RC造・地上4階建
新築・改修	新築
整備時期	2021年
学校規模	20学級：724名（2023年4月7日現在）

概要

新しい校舎は、空調設備やLED照明の設置、バリアフリー化といった、生徒の教育環境の改善を第一に考えて設計・施工。その他、学校外との交流にも活用できるホールや災害時の避難施設機能を高める設備など、これからの学校に求められる機能を取り入れている。

写真等



町田第一中学校図書室「ここまちベース」

市内在住、在勤、または在学している小学生以上の方（未就学児の方は、保護者同伴であれば利用可）であれば、自由に本の閲覧や自主学習等をおこなうことができる。



交流ホール

学年集会や地域集会等を行えるスペースを設け、生徒が地域行事に参加しやすくなる環境をつくっている。



学習支援・イベント開催

図書室内には、地域の大学生が学習支援員として、常駐している。

また学校と地域がつながる拠点となるよう、様々なイベントや講座を実施。2023年7月には浴衣の着付け講座を図書室で開催。

2階 開放区画



セキュリティ対策

- 利用時間帯は団体利用エリアに管理員、個人利用エリアに学習支援員を常時配置する。
- 利用エリア以外への侵入を防ぐためのセキュリティ区画を設置する。
- 個人利用エリアに入退室管理システムを導入する。

[出典]

町田市 <https://www.city.machida.tokyo.jp/index.html>

学校施設のバリアフリー化の加速に向けた取組事例集（R4 文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/mext_00004.html

まちだの教育 108 号（2021 年 9 月 23 日）

町田市立町田第一中学校改築事業計画説明会資料

町田市議会 [https://www.gikai-](https://www.gikai-machida.jp/voices/GikaiDoc/attach/Gk/Gk5588_81_syougaiakusyu_gyousei_machidai.pdf)

[machida.jp/voices/GikaiDoc/attach/Gk/Gk5588_81_syougaiakusyu_gyousei_machidai.p](https://www.gikai-machida.jp/voices/GikaiDoc/attach/Gk/Gk5588_81_syougaiakusyu_gyousei_machidai.pdf)
df

事例 5：愛知県瀬戸市、にじの丘学園

所在地	愛知県瀬戸市中山町 1 番地の 57
建物用途	小学校（公立）、中学校（公立）、地域図書館
地域開放	図書館
建築面積	7,238 m ²
延床面積	12,134 m ²
構造・階数	RC 造・地上 2 階、地下 1 階建
新築・改修	新築
整備時期	2020 年
学校規模	小学校 28 学級：708 名 中学校 12 学級：306 名（2022 年 5 月 1 日現在）

概要

本施設は、緑地公園の一角に 5 小学校と 2 中学校の 7 校統合による小中一貫校として計画された。設計コンセプトは、「歴史や伝統を受け継ぐ場所をつくり、9 年間の学校生活の中で、自ずと郷土を学び、次世代へ掲揚される学び舎をつくること」である。

山林や多くの自然環境が残る高低差約 15m の特徴ある敷地を最大限活用し、太陽光、自然採光、通風等の自然エネルギーを積極的に活用することで、省エネルギー性能を高めた。また BEMS により各データを見える化することで、生徒に対し環境意識の啓蒙を図っている。

写真



校舎外観



大階段・吹抜構造

瀬戸物の登り窯を模した大階段・吹抜構造「登り窯ステップ」を校舎中央に配置し、高低差のある地形を活かし、中庭やハイサイドライトを立体的に配置することで光や風を大空間に優しく取り込む計画とした。

地域図書館

地域図書館「にじの丘ライブラリー」

学校の中心にライブラリー・多目的スペースを配置し、地域や子どもたちの交流が自然に生まれる場所をつくった。土日祝日は、地域図書館として一般開放している。児童書だけでなく一般書籍も並んでいる。



本棚や舞台と一体となった大階段は、移動中の子どもたちが様々な活動に出会うきっかけとなる。



上級生が下級生に読み聞かせをする姿も。

[出典]

ZEB 事例集（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/shuppan/mext_00003.html

瀬戸市 <http://www.city.seto.aichi.jp/>

いいもんせともん <https://iimonsetomon.jp/kurasu/>

久米設計 https://kumesekkei.co.jp/designstory/nijinooka_gakuen.html

事例 6：長野県阿智村、阿智村立阿智中学校	
所在地	長野県下伊那郡阿智村伍和 173
学校規模	9 学級：184 名
整備時期	2009 年（体育館竣工）
背景・経緯	村には社会体育施設としての体育館がなかった。そのため、中学校改築の際に村体育協会、体育指導委員会、チャレンジゆう Achi、PTA、公民館等が連名で村長に要望書を提出。村の健康づくりの拠点、また中学生の放課後の居場所として、社会体育施設を整備するよう要請した。現在の阿智中学校体育館は社会体育施設ではないものの、チャレンジゆう Achi が管理の一部を担うなど、広く村民が利用している。
取組内容	体育館棟を校舎とは独立して整備し、ギャラリー部分を活用したランニングコース、トレーニングルーム、社会開放室、トイレ、更衣室、AED 等を設置している。保護者の送迎等も含め多くの利用者が車で来校するため、約 200 台分の駐車スペースを確保した。
写真等	
<pre> graph TD A[阿智村教育委員会 (中央公民館)] -- "使用許可申請" --> B[利用者] B -- "空き状況を勘案しつつ許可" --> A A -- "管理委託 (阿智中学校体育館の平日部活動終了後の時間帯について)" --> C[チャレンジゆうAchi] C -- "鍵の受け渡し (チャレンジゆうAchi 不在時)" --> D[管理員] D --> B C -- "・受付業務 ・開放時間終了後の見回り ※利用者としても多数のプログラムを開講" --> C </pre> 社会開放室 平日夕方には総合型地域スポーツクラブの担当者がある。クラブ担当者は受付手続きや開放時間終了後の見回りを実施。 取組体制 平日夕方 17～21 時については、学校体育施設の管理を総合型地域スポーツクラブ「チャレンジゆう Achi」（NPO 法人格取得予定）に委託。	

[出典]

学校体育施設の有効活用に関する手引き（令和 2 年 3 月） スポーツ庁

事例 7：つくば市立春日学園

所在地	茨城県つくば市春日 2 丁目 47 番地
建物用途	義務教育学校
校地面積	46,628 m ²
延床面積	14,718 m ²
構造・階数	RC 造・地上 3 階建
新築・改修	新築
開校年	2012 年
学校規模	1～6 年生 27 学級：693 名 7～9 年生 15 学級：410 名（2022 年 5 月 1 日現在）

概要



校舎外観

つくばエクスプレスの開通に伴い、研究学園都市駅周辺の住宅開発が進み、人口が急増。このため、施設一体型の小中一貫校の新設を計画、平成 24 年 4 月に開校した。

春日学園は、つくば市で初めての施設一体型校である。つくば市では、平成 24 年度から、市内の全小・中学校 53 校（15 学園）において、小中一貫教育を本格実施している。

ICT による学校運営

職員室、事務室が統合された校務センターは、スクールアベニューに面し、校門や各棟の出入口を見通すことができる位置にあり、児童生徒の様子を見守りやすい。また、積極的な ICT 機器の導入が図られており、広く人数の多い校務センターにおいても、ICT 機器を活かし職員間の情報共有・意思統一を図っている。



窓から学内の様子が見える校務センター



ICT 機器を活かした職員会議



コンピュータ室の配置

コンピュータ室は図書室と同じフロアに配し、メディアゾーンとして一体的な利用も可能となっている。家具が分散配置型となっており、交流授業で上級学年が指導に参加する際にも適した空間となっている。



コンピュータ室の円形机

児童生徒がコンピュータに向かって個別学習に取り組むのではなく、周りの友だちと話し合いながら学ぶことが大切であり、学校とは学び合う場所であるという考えのもと、教員が手作りした大きな円形の机をコンピュータ教室用の机とした。



タブレット端末でまとめ、電子黒板に投影

個々が考えたことを、すぐに同一画面上で共有化し、グループ全員の思考を可視化する。こういった取り組みは、従来の紙媒体では出来ないことであり、思考の可視化や効率化にタブレット端末を役立て、思考力・判断力・表現力を育てていく。



リトルティーチャー

1、2年生の児童には、7～9年生の生徒が「リトルティーチャー」として ICT 機器の操作を教える取り組みを行っている。下学年に頼られる経験は、生徒の自己肯定感の育成につながっている。

[出典]

○報告書「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について～子供たちの 9 年間の学びを支える施設環境の充実に向けて～」(文部科学省)

○つくば市 <https://www.city.tsukuba.lg.jp/>

○S k y 株式会社 <https://www.sky-school-ict.net/class/front/front41.html>



図書室（総合メディアセンター）

図書室は総合メディアセンターとしてコンピュータールームと一体化し、校舎の中心に配置されている。新しく入った本の紹介や、読書週間等のおすすめの本コーナーを、小中それぞれに設置している。



[出典]

○報告書「小中一貫教育に適した学校施設の在り方について～子供たちの 9 年間の学びを支える施設環境の充実に向けて～」(文部科学省)

○広島県府中市 <https://www.city.fuchu.hiroshima.jp/>

事例 9：東海村立白方小学校

所在地	茨城県那珂郡東海村白方 2009 番地
建物用途	小学校
敷地面積	41,158.72 m ²
延床面積	9,850.17 m ²
構造・階数	RC 造、一部 S 造・地上 2 階建
新築・改修	新築
開校年	2009 年
学校規模	小学校：508 名（2022 年 10 月 1 日現在）

写真等



校舎外観

白方小は敷地が広く、各学年の教室がゆるやかに独立し、ユニットを組む設計となっている。



中学年教室

教室内に個別に座れる席を用意している。



巨大な階段が設置されたランチルーム

普段は他の教室への移動通路として使われているこの階段は、児童が座りやすいように設計されており、星座観測の説明会や講師を招いた講演会を、このスペースで実施してきた。



高学年の教室とオープンスペース

通常時は廊下となるオープンスペースは、同学年の児童が集まる場としても機能する。

〔出典〕

○東海村 <https://www.vill.tokai.ibaraki.jp/index.html>

○ベネッセ教育総合研究所 https://berd.benesse.jp/special/manabi/manabi_15.php

事例 10：流山市立おおぐろの森中学校

所在地	千葉県流山市大畔 581 番地
学校規模	13 学級：334 名（2022 年 4 月 1 日現在）
整備時期	2022 年
取組内容	隣接するおおぐろの森小学校と同様、国産・千葉県産の木材を活用した、国内最大級の木造校舎となる。用途に合わせた構造や防耐火技術を採用し、木の空間の魅力を感じさせながらも、生徒たちが学んだり、運動したりしやすい配慮がある。 体育館の立体組子トラスは一般的に流通している中断面の集成材（岩手近県のカラマツ）で構成されていて約 28.7m のスパンと約 10m の水平な天井高を確保している。輝く白い床はヨーロッパ産メイプルを使用し、ささくれの抑制加工を施している。

写真等



体育館（RC 造・鉄骨造＋木造屋根）

体育館は、木のぬくもりが感じられる木質大空間。

屋根は柱を鉄骨造として、トラスの上下弦を鋼板挿入のドリフトピンで支持している。

照明は挟み込んだ材の間に設置されていて、ボールがぶつかっても壊れないように配慮されている。



可動式上屋
プール

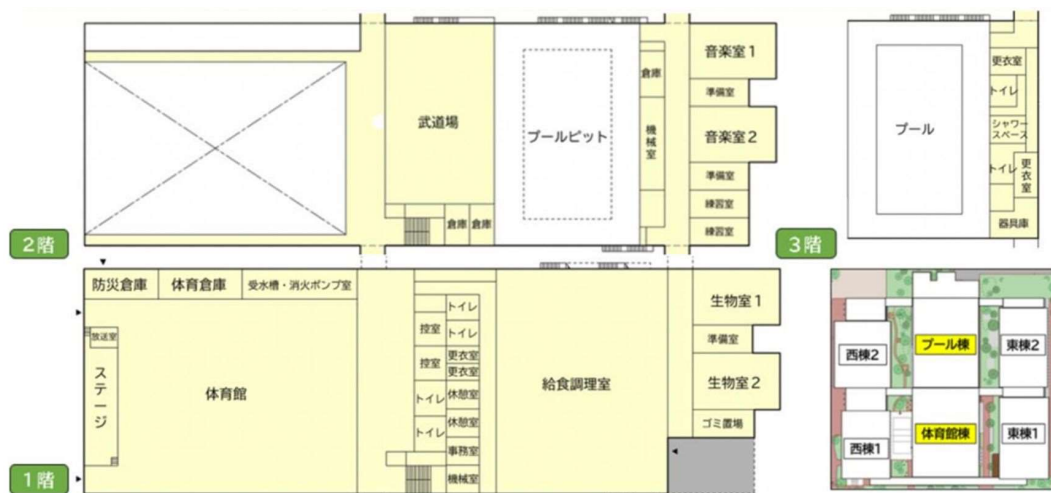
配置図等



項目	防災設備
飲料水	① 防災倉庫
	② 受水槽
雑用水	③ 防災井戸
消火水利	④ 防火水槽
排水	⑤ マホ-トル ユニット
電気	⑥ GHP 発電機
	⑦ 太陽光発電
その他	⑧ かまどベンチ

防災整備

災害が発生した場合に地域の方々が安全に避難できるよう、避難所として整備している。



体育館棟・プール棟配置図

- 1 階には体育館フロア、給食調理室、生物室 1・2。
- 2 階には武道場、音楽室 1・2、音楽練習室などを配置。
- 3 階には、屋上プール、更衣室などが配置されている。

[出典]

流山市

<https://www.city.nagareyama.chiba.jp/life/1001300/1001301/1020089/1029114/1032423.html>

ウッドデザイン賞 <https://www.wooddesign.jp/db/production/1740/>

関東森林管理局東京事務所

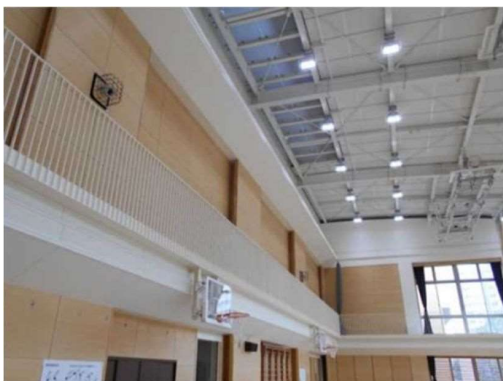
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/tokyo/mokuzairyou/attach/pdf/mokuzairiyousisetu-19.pdf>

株式会社角藤 <https://www.kakuto.co.jp/product/10kado/showcase/facility/pool/post-126.php>

事例 11：江戸川区立第三松江小学校

所在地	東京都江戸川区中央 4 丁目 13 番 1 号
学校規模	23 学級：709 名
整備時期	2016 年
取組内容	江戸川区立第三松江小学校では中庭を利用した通風により、建物全体に自然な空気の流れをつくり出している。また、屋内運動場の屋根部にはバランス式自然通風窓を設置し暖められた空気を排気することで、快適な自然通風を図っている。さらに、屋内運動場床面付近に小風量換気孔、屋根面に排気風機ファンを設置し、夏場は、夜間に涼しくなった外気を室内に取り入れるナイトパージ運用を行うことで夜間冷却を行う。また、冬場は屋内運動場の天井にたまった暖かい空気を送風機によって床に吹き出し、太陽熱による暖気を利用している。

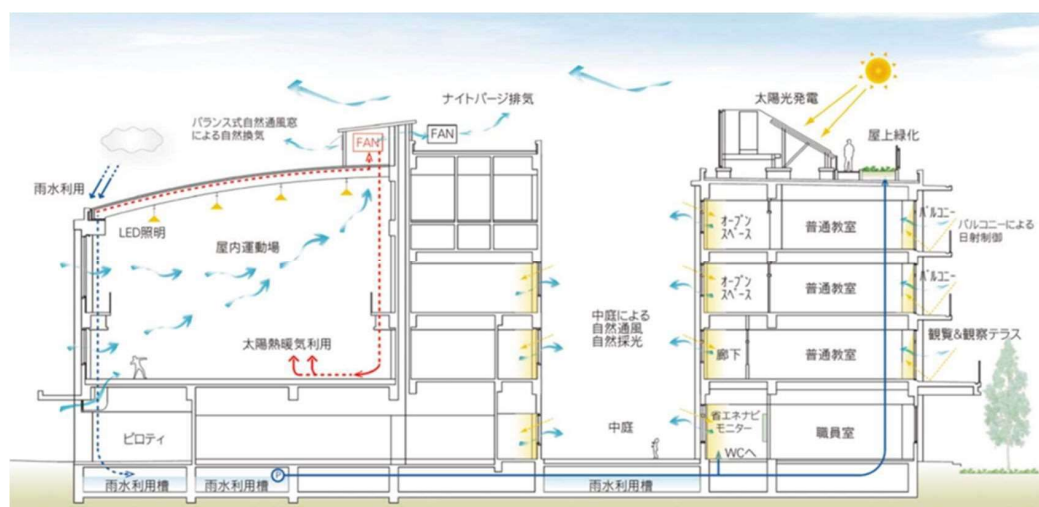
写真等



屋内運動場天井



屋内運動場床面付近



[出典]

効率的かつ効果的な学校施設の整備に関する事例集（平成 31 年 2 月） 文部科学省

小学校機能を複合した南知多中学校新校舎建設基本構想・基本計画町民ワークショップ

「みんなで考える 新しい学校づくり」

南知多町では、未来を担う子どもたちのため、新しい学校の建設に向けた検討を進めています。新しい学校が、子どもたちにとって学びやすく、地域にとっても親しまれる施設となるよう、町民の皆様のご意見をお聞きするため、意見交換会を開催します。

皆様からいただいたご意見は、今後の新しい学校づくりの検討に活用してまいります。ぜひお気軽にご参加ください。

◆内地 日時：2026年8月25日（火）19時00分～

場 所：南知多町役場 3階 大会議室

◆日間賀島 日時：2026年9月8日（火）19時00分～

場 所：日間賀島公民館 3階 集会室

◆篠島 日時：2026年9月10日（木）19時00分～

場 所：篠島開発総合センター 2階 集会室

プログラム

19：00	○ 開会
19：00	○ 小学校機能を複合した南知多中学校新校舎建設について ・ 概要説明、質疑応答
19：10	○ ワークショップの進め方について ・ 説明
19：15	○ グループワーク ・ グループにわかれて、「意見出し（付箋記入5分）＋グループ内で共有（発表 15分）」を、2つのテーマのもと行います
(30分)	テーマ①：新校舎の建設方式について 小学校・中学校を「同一棟」とする場合に期待すること・懸念すること
(30分)	テーマ②：学校施設の地域開放について 「学校施設が地域に開放されたら、どのように利用したいですか。」
20：15 (15分)	○ グループ発表 ・ 全体で共有
20：30	○ まとめ・閉会